

263-12ハ



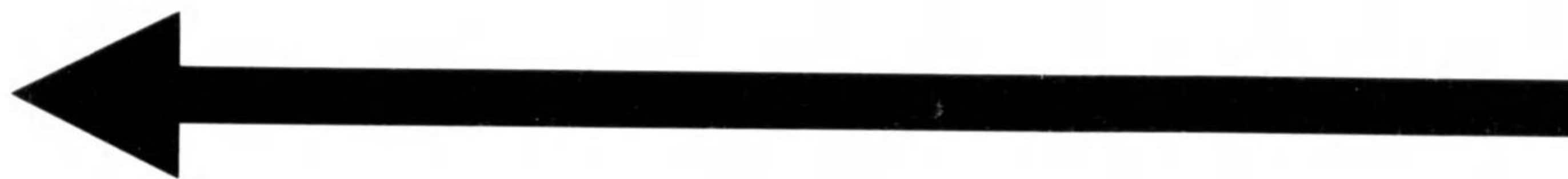
\*1200701759000\*

263

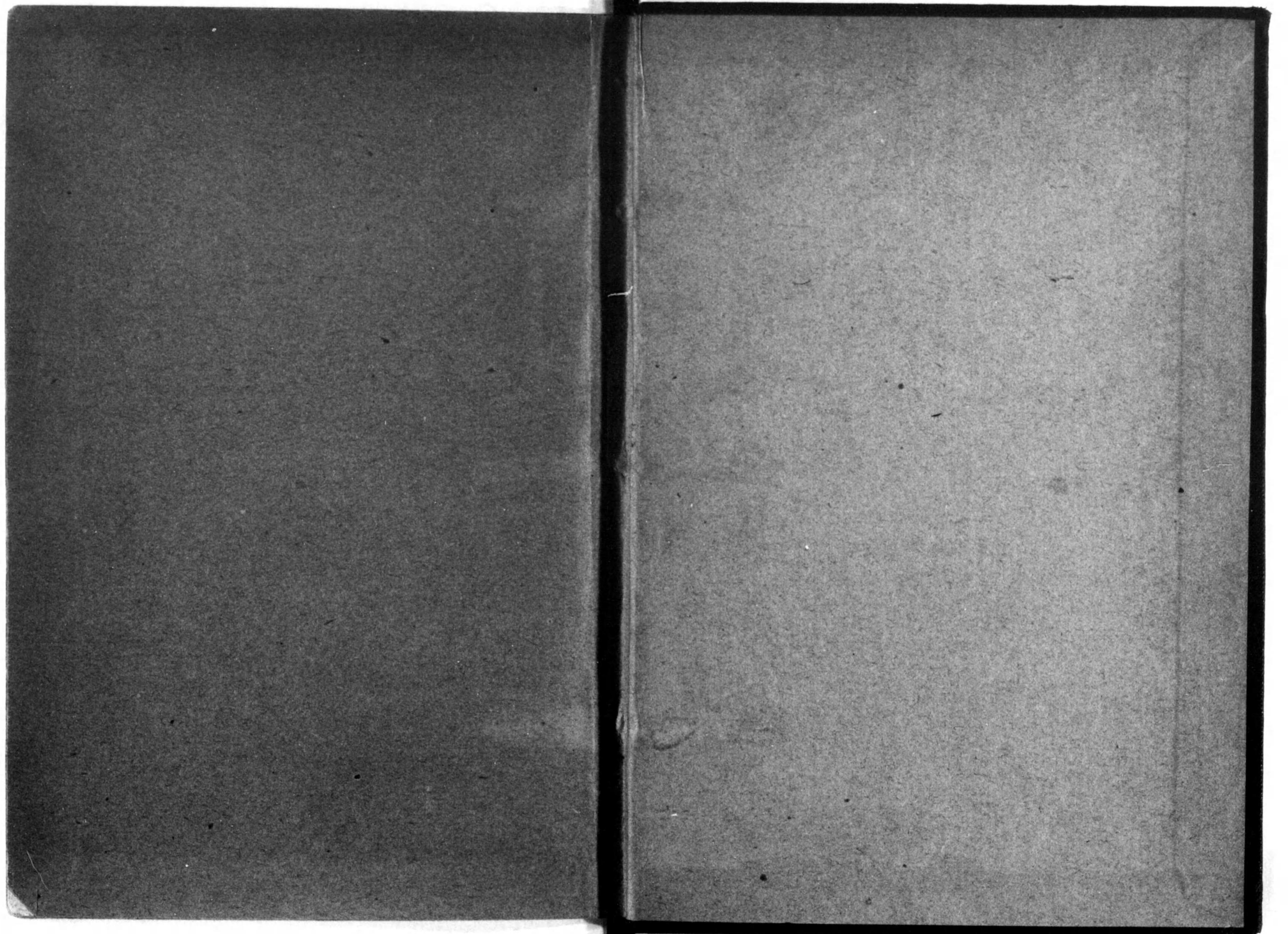
12ハ



始









24  
13

黒田定治  
木下邦昌  
同纂  
文學社編輯所訂正

新訂  
增補  
敎授術

東京

文學社



263-12

黒田定治  
木下邦昌  
同纂  
文學社編輯所訂正

新訂  
增補

# 教授術

東京

文學社





增訂 教授術

目次

第一編 一 總論 增訂之心得	百廿四頁
第十章 教授之目的	百廿一頁
第十一章 教授之統一	百十五頁
第十二章 教授之順序	百廿五頁
第十三章 教授之方式	百九十八頁
第二編 各教科目教授法	百一十頁
第六章 修身科	百十七頁
第七章 讀書科	百二十三頁
第八章 作文科	百二十三頁

目次

一



第四章 習字科……………四十九丁

第五章 算術科……………五十八丁

第六章 地理科……………七十七丁

第七章 歴史科……………九十一丁

第八章 理科……………九十八丁

第九章 圖畫科……………百七丁

第十章 唱歌科……………百十五丁

第十一章 體操科……………百廿一丁

第十二章 教師ノ心得……………百廿四丁

目次

新編教科書 目次 増補 教授 術 増補 主如

二八 視臨 教育ノ目的ニ適合スル 木下 義邦 同 纂

編 典 第一編 總論 凡テ 諸 教科 目ニ 適合スル 當リ 其 旨

元來 教授 (Instruction) ナル 語ニ ツキテ ハ ツノ 意義アリ 其

他 凡テ 専門ニ 屬スル 學校ノ 如キハ 其 教授ノ 目的 (End) トス

ル 夫以テ 主眼 大ニ 其 人物 如何ニ 決如キハ 敢テ 關スル 所ニ

トスト 雖モ 小學校 教授ノ 目的トスル 所ハ 全ク之ニ 反シ 所

第一章 (教授ノ目的)



謂道德教育、國民教育ノ基礎ヲ授ケ、善良ナル國民ヲ養成スルヲ以テ、其最大ナル主眼トシ、斯クテ如ク善良ノ國民ヲ養成スルヲ以テ、第一ノ目的トスルモノコトヲ教授ヲ稱シテ訓育的教授ト云フ、而シテ此訓育的教授トシテ實ニ小學校ニ於テ取ルヘキ教授法 (Method of Teaching) ナリト知ルヘシ、小學校ニ於テ取ルヘキ教授法ハ、果シテ前述ノ如シトセハ、教師ハ修身、讀書、作文、算術等、其他凡テ諸教科目ヲ教授スルニ當リ、其智識ヲ與フルカ如キハ、寧ロ之ヲ第二ノ目的トシテ、先ツ第一ニハ所謂教育ノ目的ニ適合スル人物ヲ養成スルヲ以テ、大主眼トセサル可カラス、訓育的ノ教授ハ、單ニ教師カ教室ニ於テ各教科目ヲ教授ナシ、書籍石盤等ヲ以テノヨリ施ス可

キモノニ非シテ、家庭ニ於テモ、遊歩場ニ於テモ、其他道路ヲ歩ク際ニ於テモ、又ハ朋友ト遊戯スル場合ニ於テモ、悉ク教授ノ範圍内ニナルモノヲ忘ル可カラズ、是レ即チ訓育的ノ小學校教授カ、非訓育的ノ專門教授ト大ニ異ナル所以ナリ、云々ニ其式ヲ詳述スルニ當リ、今ニモ大眼ニテ之ヲ示ス

第二章 教授ノ統一

前ニ述ラルカ如ク、小學校ノ教授ハ、訓育的タルヘキモノニシテ、決シテ一藝一能ニ通スル專門家ヲ作ルモノニ非ス、即チ算術ヲ教ヘテ數學者トシ、習字ヲ教ヘテ書家ヲ作ルニ非ス、是等種々ノ智識ヲ授ケ、教育ノ目的ニ適合スル國民ヲ養成スルニアリ、故ニ其各教科目ヲ授クルニ當テハ、決シテ之ヲ個々別々ニ授ク可キモノニ非ス、シテ出來得ルタケ

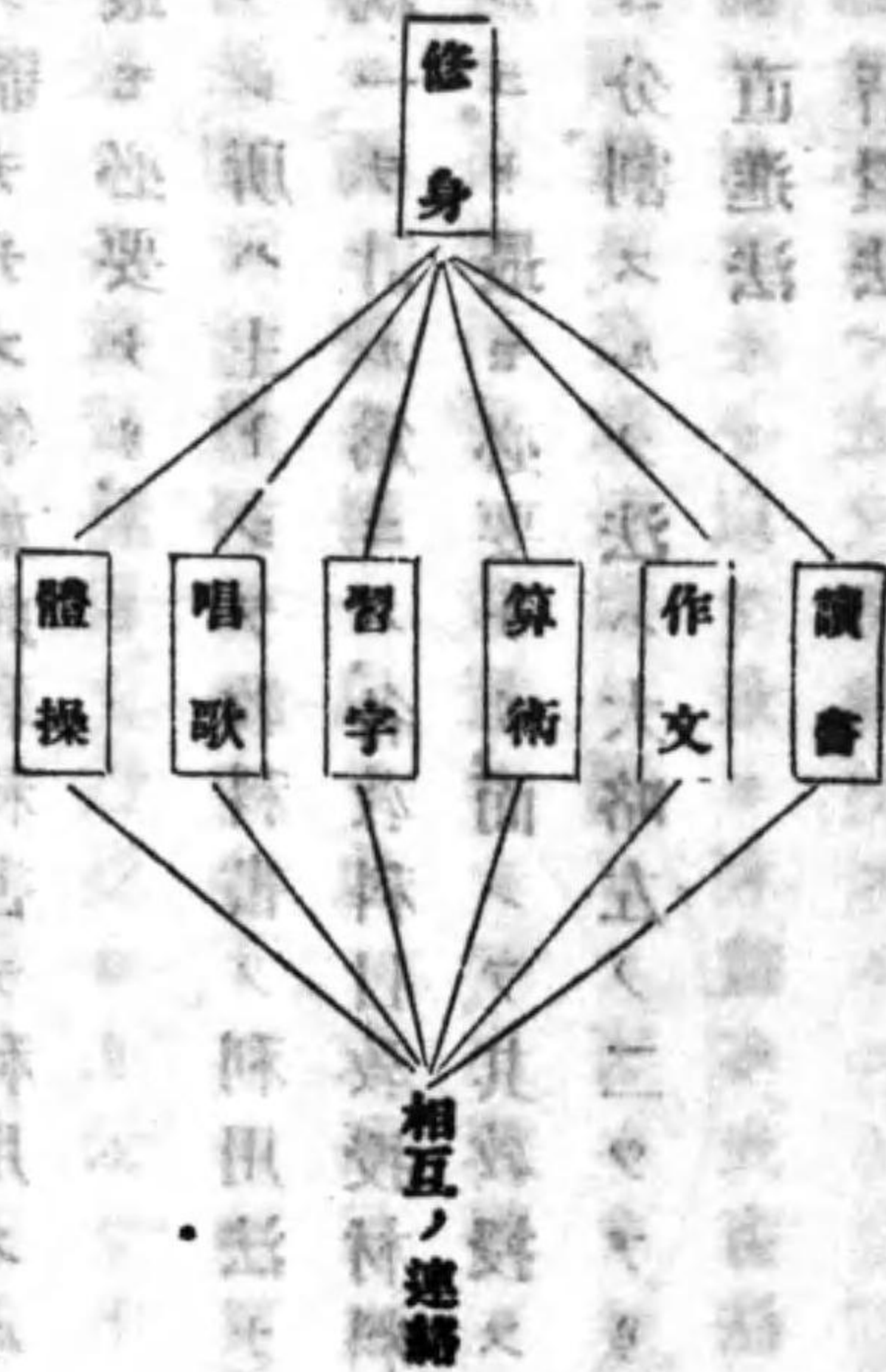


各教科目ヲ互ニ連絡セシメ、以テ教授ノ統一ヲ計ラサル可  
 カラス、況ヤ教授ノ統一的タラサル可カラサルコトハ、心理  
 學上最モ重要ナルノミナラス、今日ノ如ク小學校ニ於テ教  
 フヘキ事柄ノ非常ニ繁多ナル場合ニアツテハ、教授ノ統一  
 ニ依テ兒童ノ腦力ニ無益ノ煩勞ヲ避ケシメ、且ツ其智識ノ  
 散漫ヲ防クハ實ニ必要ノ事ナリトス、  
 然リ而テ各教科目教授ノ統一ヲ計ルニハ、如何セハ、可ナル  
 カト云フニ、其方法種々アリト雖モ、今之ヲ大別シテ二ツト  
 ス、即チ  
 一、或ハ一教科目ヲ中心トシテ、他ノ諸教科目ヲ悉ク之ニ  
 結合セシムルコト、  
 二、各教科目ノ獨立ヲ害スルコト無ク、出來得ルニテ相互

今圖ヲ連絡ヲ附シテ之ヲ教授スルコト  
 是ナリ、而シテ其第一ニ於ケルカ如ク、或ハ一教科目ヲ撰ン  
 テ、他ノ諸教科目教授ノ中心點トスルニハ、如何ナル教科目  
 カ之ニ適スルカト云フニ、前述ノ如キ教授ノ目的ヨリ云ハ  
 ハ、修身科ヲ措テ他ニ求ムヘカサルコト、即チ修身科ヲ以  
 テ中心點ト定メ、讀書、作文、算術等ノ諸教科目ヲ悉ク之  
 ニ結セ付ケンムルコトナリ、  
 又第二ノ如ク各教科目ノ教授ヲシテ、出來得ルニテ相互ノ  
 連絡ヲ付スルハ、實ニ重要ノコトナレトモ、徒ニ連絡ノミナ  
 計リテ各教科目教授ノ目的ヲ誤マルカ如キコトアラハ、是  
 レ亦決シテ策ヲ得タルモノニアラス、サリトテ從來ノ教授  
 法ノ如ク、讀書、作文ナトノ如キ、極メテ親密ナル關係ヲ等閑



当附スルカ如キハ、實ニ教授ノ統一ヲ缺ク甚シキモノナリ  
 又各教科目相互ヲ連絡ニ非サルモ、例ヘハ夏ニ於テ雪トカ  
 霜トカニ關係セラル讀書談話ヲナシ、却テ冬ニ於テ櫻トカ桃  
 花トカニ關係スルモノヲ授クルカ如キハ、教授ノ方法ヲ誤マ  
 ルモノト言ハサルヲ得ス、  
 故ニ小學校ノ各教授科目ノ性質ヨリ云フトキハ、必スシモ  
 第十ノ方法(即チ一教科目ヲ中心トスル)ニ依ルニ依ルニ能  
 ハズ雖モ、而モ修身科ヲ以テ他ノ教科目ヨリ於テ段高ク  
 モツト授テ、各教科目ノ教授法シテ、出來得ルヨリ之ヲ結  
 付ケル能同時ニ、各教科目ノ獨立ヲ害セザル限リハ、充分相  
 互ヲ連絡ヲ付スルヲ以テ最モ利益多ク方法連環目ヲ對シ  
 今圖ヲ以テ示シ、左ノ如ク、對スルニ依リ

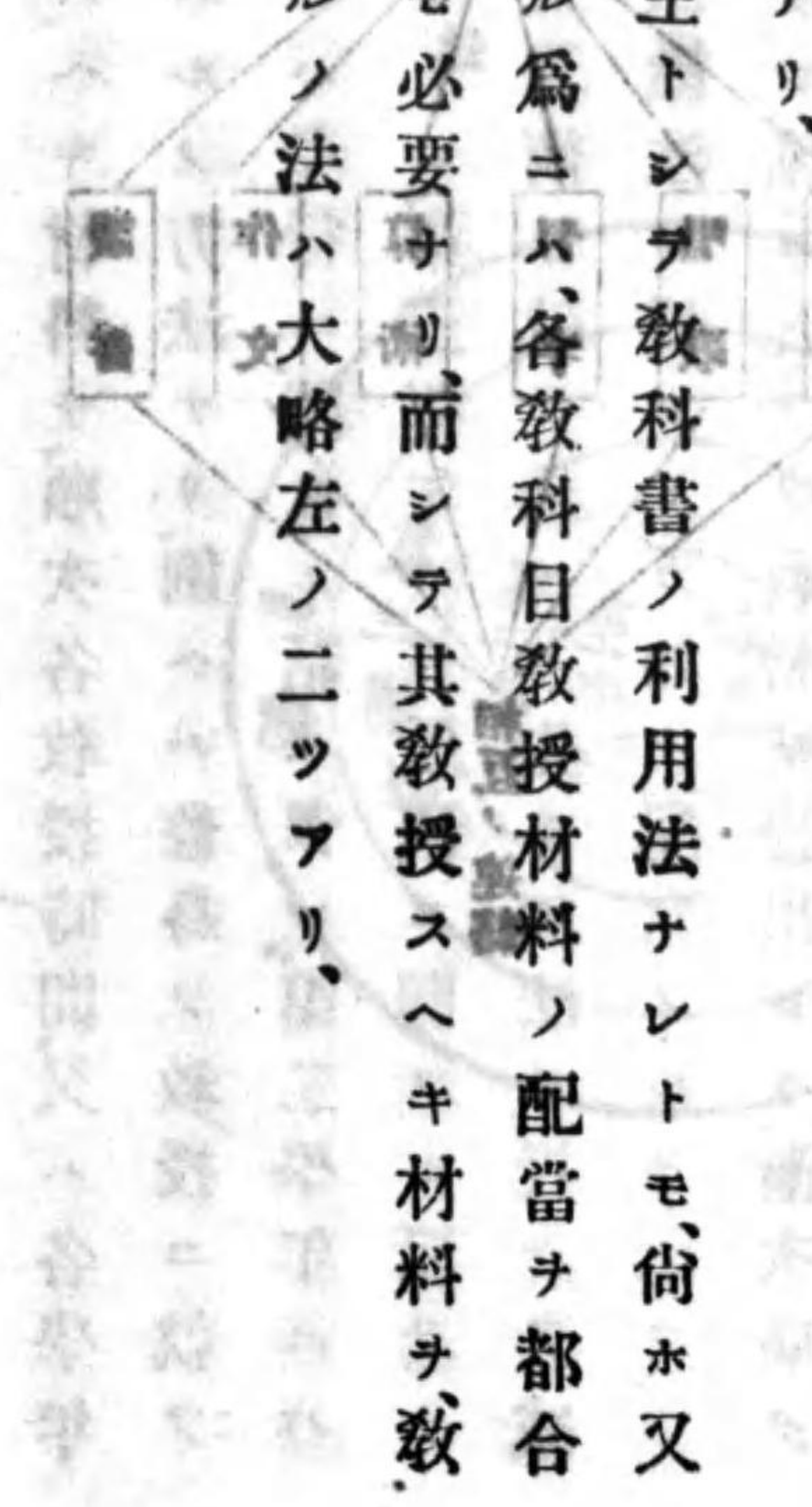


教授ヲシテ前ニ述ラルカ如ク連絡セシムルニハ、止ニ毎日  
 ノ教授ニ於テ連絡ヲ計ルノミナラス、豫メ教授細目及教案  
 等ヲ編製スルノ際ニ於テ、充分之カ斟酌ヲナサザル可カラ  
 ス、例ヘハ讀書ノ如キ、今日第十課ヲ教ヘ、明日必ス第十課



チ教フヘ限下限ルニテ日スシテ他ノ教科目ト連絡ヲ計  
 爲ニハ或ハ越テ第十五課至迄ユリテ下テハ七八  
 課ヲ教フル場合モアルヘシ又時候及自然ノ現象ト關係  
 以テル爲ニハ雷ノ時ニ當リ雷ノ談話ヲナシ日蝕ノ時ニ當  
 リ日蝕ノ話ヲナス等如此教科書ヲ利用スルコトハ教授ノ  
 統一上最モ必要ナリ  
 前ニ述ヘシ所ハ主トシテ教科書ノ利用法ナレトモ尙ホ又  
 教授ノ統一ヲ計ル爲ニハ各教科目教授材料ノ配當ヲ都合  
 ヨクスルコト最モ必要ナリ而シテ其教授スヘキ材料ヲ教  
 授時間ニ分割スルノ法ハ大略左ノニツアリ

一、直進法  
 二、循環法



直進法トハ教授スヘキ材料ヲ順次各教授時間又ハ各學年  
 ニ配當シテ教授スルノ方法ナリ例ヘハ修身ノ教授ニ就テ  
 云ヘハ第一學年ニハ孝行ニ關スル話ヲ第二學年ニハ  
 親切ニ關スル話ヲ第三學年ニハ愛國ニ關スル話ヲナ  
 スト云フカ如ク又算術ニ就テ云ヘハ先ツ加法ヲ授ケテ減  
 法ニ移リ然後乗法除法ヲ授クルカ如ク配當スルヲ云フ、  
 循環法ハ之レニ反シ常ニ凡テノ教材ヲ提出シテ漸次廣ク  
 且ツ深キニ至ラシムルモノニテ尋常小學校ノ算術科ノ如  
 キハ實ニ此適例ナリ即チ尋常第一學年ニ算術ヲ教フルニ  
 當テ最初ニ三以下ノ加減乗除四以下五以下ヨリ終ニ進  
 テ二十以下ノ加減乗除ニ至ルト云フ如ク教科目ヲ編製セ  
 即チ循環的ニ教授スルナリ



此工ツシ方法ヲ更ニ算術科ニ就テ圖解セハ左ノ如シ、

第一	第二	第三	第四
加	減	乘	除
法	法	法	法



此工ツシ方法ヲ更ニ算術科ニ就テ圖解セハ左ノ如シ、

又修身ニ就テ循環法ノ圖解ヲ左ニ示ス、



右ノ如クナルヲ以テ、純粹ノ直進法ハ、練習ニ乏シク且ツ教



授ノ統一ヲ害スル恐アルヲ以テ小學校ニ適スルモノニ非  
 ス、然ルニ循環法ニ於テハ、練習ニ最モ便利ニ且ツ教授ノ統  
 一ヲ計ルニモ亦便利ナリ、之レニ加フルニ新教則ノ精神ハ、  
 主トシテ循環法ニ取ル處多シ、故ニ小學校ノ教授ハ、循環法  
 ニ依ラサル可ラス、然レトモ直進法ハ又決シテ不必用ナル  
 ニ非ス、教科目ノ種類ニ依リテハ、必スシモ純粹ノ循環法ニ  
 依ルコトノ出來得サル場合アリ、故ニ循環法ニモ多少ノ斟  
 酌ヲ加ヘテ、此直進法ト互ニ相待テ完全ナ期スルコト必要  
 ナリ、

第三章 教授ノ順序

教授ハ各教科目ノ連絡ヲ計ルト同時ニ、各教科目既得ノ智  
 識ヲ基トシテ之ヲ結合シテ教ル可ラス、是レ又教授上必用ナ

ル如キナリ、凡ハ智識ハ既得ヲ習識ヲ基礎トシテ、其上由築  
 キタルモノハ非シ、到底眞實智識ト云フ由得莫ク、  
 是ニ於テカ教授ノ順序ノ必要起ルナリ、而シテ教授ノ順序  
 ナ分テ三トシ、即チ豫備、教授、應用是ナリ、  
 第一、豫備、新ナル智識ヲシテ、生徒ノ既  
 ニ有スル所ノ智識ニ連絡セシムルキ用意ニシテ、教授ノ第  
 一步ニ屬ス、夫レ毎日ノ教授ハ、翌日以豫備トナリ、毎週ノ教  
 授ハ翌週ノ豫備、毎月ノ教授ハ次ノ月前學年ノ教授ハ後學  
 年ノ豫備タルコト、固ヨリ必要ナリト雖モ、生徒ノ舊智識  
 ルモノハ、必スシモ常ニ心意ノ中ニ存スルモノニ非ス、且往  
 々時ヲ經過スルニ從ヒ薄弱ニ赴クモノナレハ、教師ノ一事  
 項ヲ授ケントスルニ當リテハ、先ツ第一ニ其授ケントスル

第三章 (教授ノ順序)



事柄ニ、最モ親密ノ關係アル舊智識ヲ喚起シ、以テ之ニ結ヒ付ケサル可ラス、而シテ其舊智識ハ必スシモ教授シタル事柄ノミニ限ラス、生徒カ日常自身ニ經驗シタルモノモ、併セ用フルコト必要ナリ、而シテ之ヲナスニハ成ルヘキタケ、問答體ニ依テ充分生徒ヲシテ談話セシメ、教師ノ談話ハ餘リニ多カラサルヲ可トス、如斯ニシテ將ニ授ケントスル事柄ニ對スル、多方ノ興味(Interest)ヲ喚起セシメハ、求メスシテ生徒ノ注意ヲ確保スルヲ得ヘキナリ、

通常用フル興味ハ、生徒ヲシテ其修ムル教科目ニ就テ、倦怠ヲ生セシメサル爲メニ、教師カ或ハ珍ラシキ圖畫ヲ示シ、或ハ面白キ談話ヲナス等、種々ノ方法ニ由テ其興味ヲ喚起スルカ、如キコトヲ稱ス、興味ハ方便ニシテ、之ニ由テ

而生徒ヲシテ學問ヲ好セシトスルニ嗜好劣生セシメ、爲ナレトモ、ヘルツト氏(獨乙國ノ哲學者ニシテ、千七百七十六年ニ生レ、千八百四十一年ニ没ス、教育學ヲ科學(Science)ノ位置ニ進メタル空前ノ大事業ヲ遂ケン人ニテ後ナルレル氏ケルン氏等、其教育說ヲ祖述シ、近時歐米各國ハ、益、此學派ノ教育說盛ニ赴クノ有様ニテ、我國今回ノ新教則ハ、其精神ヲ此教育說ニ取りタルコト多シ)ノ所謂興味ト稱スルモノハ之ト異ナリ、興味ヲ以テ目的トシ、學問ヲ以テ興味ヲ惹起スル方便トセリ、而シテ此興味ハ種々ノ點ヨリ之ヲ感スルコトヲ得ヘキモノニシテ、例ヘハ種々ノ事物ヲ見聞シテ其有様ヲ知ラントスルノ念ヲ起スモノハ、經驗的ノ興味ニシテ、事物ノ理ヲ究メ、原因結果



ノ關係ニ通セントスルノ念ヲ起スモノハ、究理的ノ興味  
 ナリ、其外審美的、同情的、社交的、信仰的興味等ノ種類アリ  
 テ、第一ヨリ第三マテハ專ラ智力ニ關スル興味ニシテ、第  
 四ヨリ第六マテハ專ラ感情ニ屬スル興味トス、今之ヲ表  
 ニ顯セハ左ノ如シ、  
 一 經驗的興味  
 二 究理的興味 智力ニ關ス  
 三 審美的興味  
 四 同情的興味  
 五 社交的興味  
 六 信仰的(或ハ宗教的)興味  
 而シテ此等ノ興味ハ、互ニ能ク相平均シテ決シテ一ニシテ興

味ニ偏スルカ如キコトアル可ラス、何ヲ以テハ此興味  
 リ願望ヲ生シ、願望ヨリ意志ヲ生ス、故ニ興味カ一方ニ偏  
 セハ從テ願望意志モ亦一方ニ偏セサルヲ得ス、然ルトキ  
 ハ道德的ノ意志ヲシテ完全ナル養成ヲナスコト能ハス、  
 故ニ興味ノ一方ニ偏セサルコトハ、教育ノ目的ヲ達スル  
 上ニ於テ尤モ必要ニシテ、ヘルバルト派ノ教育者カ唱フ  
 ル所ノ、多方ノ興味ト稱スルハ即チ此ノ事ナリ、  
 又豫備ハ單ニ教授ノ第一歩トシテ之ヲナスノミナラス、或  
 教科目ニ就テハ、生徒ヲシテ成ルヘキ丈其翌日爲スヘキコ  
 トヲ豫習セシムルコト尤モ必要ナリ、是レ一ハ生徒ニ自力  
 ニ依頼スルノ精神ヲ興へ、一ハ智識ノ確實ト及興味ヲ惹起  
 スルトニツキ大ナル効力ヲ有スルモノニテ、從來ノ教授法



ニ於テ生徒ノ豫習ヲ重セザリシハ、缺點ト云ハサルヲ得ス、  
 第二、豫備既ニ了ラハ、教師ハ宜シク新事項ヲ提示シ、反覆  
 練習シテ充分ニ其授ケントスル事項ヲ了解セシメ、而シテ  
 舊智識ト結合シテ其記憶ヲ鞏固ニスルコトヲ務メ、更ニ其  
 類似ト不類似トヲ比較シ、之ヲ統括シテ一般ノ真理ヲ發見  
 シ、生徒ヲシテ明瞭ナル言語ヲ以テ之ヲ表述セシメ、以テ一  
 箇ノ完全ナル智識トナスコトヲ務メサルヘカラス、從來ノ  
 教授法トシテハ、教授ノ最大目的タル此統括ヲ輕忽ニシタ  
 ルノ感アルヲ免レス、故ニ生徒ハ一事項ヲ教ヘラレタル後、  
 其事柄ノ中ノ二三オハ之ヲ記憶スルモ、其緊要ナル事ニ至  
 テハ誠ニ茫然トシテ一時間ノ中ニ何事ヲ學セタルカヲ確  
 實ヲ述ルコトヲ得サルモノ多シ、是レ畢竟統括ノ不完全ヲ

証ニシテ其智識ノ不完全ナルハ勿論、コレヲ實際ニ應用  
 スルコト能ハサルナリ、  
 第三、既ニ智識ヲシテ充分兒童ノ有テラシメタル後ハ、  
 更ニ之ヲ實地ニ應用セシメテ、而シテ自由自在ニ之ヲ活用  
 スル道ヲ知ラシメサルヘカラス、然ルニ從來ノ教授法タル  
 ヤ多クハ單ニ教授ニ止マリテ、應用ヲ缺キ、且ツ教授ノ材料  
 常ニ多キニ過キテ、生徒ヲシテ、其學ヒタル處ヲ充分了解ス  
 ルコト能ハサラシム、加フルニ其練習少ナケレハ、到底眞ニ  
 所謂教授ノ目的ヲ達スルコト能ハス、故ニ寧ロ其教授スル  
 材料ハ少ナクトモ、其教授ヲ確定ニシテ應用ノ範圍ヲ擴ム  
 ル事最モ必用ナリ、  
 第四章 教授ノ方式



教授ノ方式トハ、教授ニ於テ教師カ生徒ニ智識ヲ傳フルノ方法ニシテ、此方法ハ到底言語ニ依ルノ外ナシ、而シテ其方式ヲ大別シテ二ツトス、一ハ獨演的ニシテ、談話ヲナスモノハ常ニ教師ニ限り、生徒ハ只之ヲ聽聞スルノミ、即チ彼ノ講義體ニ出ツルモノ是ナリ、之ヲ叙述法ト云フ、二ハ即チ發問的ニシテ、教師ハ疑問ヲ發シテ生徒之ニ答ヘ、教師ト生徒ト互ニ談話スルモノニシテ之ヲ疑問法ト云フ、而シテ此二ツノ方式中、第一ハ重ニ高等學校ニ用ヒラルヘキモノニシテ、小學校ニ於テハ是非トモ發問的方式ニ依ラサル可ラス、然レトモ亦獨演的ノ方式モ、決シテ小學校ニ不用ナルニ非ス、教科目ノ種類ニ依リテハ、互ニ相交換シテ之ヲ用フルコト最モ必用ナリ、

左ニ疑問法ノ様式ニ關スル注意ヲ述ヘン、  
發問的ノ教授式ニ由テ教授セントモハ、常ニ生徒ニ向テ疑問ヲ發セサルヘカラス、斯ノ如ク疑問ヲ發スル術ヲ稱シテ問答術ト云フ、問答術ハ教授術中ノ最モ緊要ナルモノナリ、何トナレハ發問法ニシテ宜シキヲ得ハ、教師ハ之ニ由テ生徒ノ已ニ知り得タル智識ノ分量ト、其腦力ノ如何トヲ知り、以テ兒童ニ適當ナル教授ヲ爲スコトヲ得、生徒ハ之レカ爲ニ大ニ注意ト興味トヲ喚起シ、從テ生徒ニ自力ノ習慣ヲ獎勵シ、談話ニ熟達セシメ、且ツ又教授ヲ活潑ニスルコトヲ得ヘケレハナリ、而シテ通常發問ノ種類ヲ分テテ三トス、

- 一、復習的發問
- 二、試驗的發問

第四章 (教授ノ方式)



三、教授的發問

第一、復習的發問トハ、所謂復習ノ爲ニ用フル疑問ニシテ、既ニ授ケタル事柄ヲ能ク記憶スルヤ、否ヤヲ試ムルニ用フルモノナリ、

第二、試驗的發問トハ、既ニ授ケン事柄ヲ能ク了解セシヤ、否ヤヲ試ミ、而シテ其教授シタル結果ノ如何ヲ驗スルニ用フルモノナリ、

第三、教授的發問トハ、新事項ヲ教ヘントスル場合ニ用フルモノニシテ、其授ケントスル事物ニ就キ、教師問ヲ發シ、生徒ヲ成ルヘキ丈自己ノ力ニ由テ推究シ、及發明スル様ニ導キ、新智識ヲ得セシムル爲ニ用フルモノナリ、

此三ニ別者ハ、教授上何レモ必要ニシテ、發問的ノ教授式ニ

於テハ、常ニ此三ノ式ヲモ兼用スル可キナリ、而シテ其ノ用ヲ別ニ當テ、教師ハ注意モヲ盡シ、可キ事ハテテ差當如ク、

- 一、發問ハ明瞭ナル更ニ發問ハ生徒ニ分リ易ク、且ツ充  
分明瞭ナル言語ヲ以テ之レヲ述ベ、少シモ疑ヲ存セザル  
ルニ下テ務メテ可カラズ、
- 二、發問ハ簡單ナル更ニ冗長ナル言句ヲ避ケ、且ツ一問  
ニ數多ク答メ答ムカ如キモノヲ避ク可シ、
- 三、發問ハ適切ナル更ニ發問ハ範圍茫然トシテ、生徒ヲ  
如何ナル答メテ宜シキカ早ク云テカ如キモノ  
ヲ避ク可シ、
- 四、生徒ノ力ニ適ズル、易キニ過クレバ厭倦ヲ來タシ、  
難キニ過クレバ其興味ヲ減ス、故ニ生徒ノ力ニ適セサ



其問ヲ避クヘシ、其與知ヲ欲スルニ主封ニ代リテ  
 其一言以テ答ヲ可キモノヲ避クヘシ、然リ、然ラハ、或ハ  
 其他簡畢ナル一言ヲ以テ答ヘ得可キモノハ之ヲ避ク  
 可シ、何トナレハ、如斯發問ハ、生徒ノ思慮ヲ勞ニスシテ  
 三答ヘ得ルヲ以テ、心力練修ノ効極メテ少ケレハナリ、  
 六、發問ハ、全生徒ニ向テ爲スヘシ、教師ハ發問スルニ當  
 一二、先ニ全生徒ニ向テ問ヲ發シ、而シテ總テノ生徒  
 以テ充分思考スルヲ待テ、然ル後一人ノ生徒ニ其答ヲ  
 言ハシメ、  
 一、發問ハ、  
 教師如何ニ發問シ巧キ思フト雖、若シ生徒ノ答辨常ニ不  
 精密ナル時ハ、其ハ充分ノ結果ヲ見ヤキ市能ヤス、翻テ之レハ

爲ニ生徒ナシテ大ナル誤謬ニ陷ラシムルコトアリ、依テ左  
 ニ生徒ヲ答辨ニ關シテ、注意スヘキ箇條ヲ述フヘシ、  
 一、答詞ニ完全ナル言辭ヲ用フニ思フ、例テ「五ノ答」ト答  
 小限レテ幾何ニ答ルハ、問ニ對シ、單ニ「五」ト答テ去ル  
 カ如キハ、不完全ナル言辭ナレハ之ヲ避ク可シ、宜シク  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、答詞ハ、高聲ニテ明瞭ナル言ハシ、兒童ノ言語ハ、常ニ初  
 正ニ明瞭ナル言ハシ、語尾ニ至レハ、低聲ニシテ、且ツ不明瞭ト  
 三、答詞ハ、發問ニ適中スルニ、其難シクハ、  
 四、歧路ニ直ル答詞ハ、之ヲ避ケシメサル可カラズ、發問ハ



四、答詞ノ中ニ不正當ナルコトアルキハ、教師ハ發問ノ  
 三、言語ヲ換ヘ、生徒サシテ自ラ其誤ノアル處ヲ發見シテ  
 更ニ其誤ヲ修正スル可シ、又此類ヲ避ケルヘシムル  
 五、憶斷ヲ以テ答辨セシム可カラズ、ニヒキ且ヤ不即知  
 六、生徒全ク答辨セス、或ハ全ク誤リタル答辨ヲナシタ  
 トキハ、教師ハ其原因ヲ探究シテ、全ク生徒ノ知ラサル  
 ニ由ルカ、或ハ發問ノ宜シキヲ得サレ由ルカヲ考究  
 七、甲ノ生徒ハ答辨シ能ハサルモ、乙ノ生徒オシ  
 一、答辨セズル可シ、又或ハ其意スヘキ箇所ヲ避ケルヘシ  
 ニシテ、或ハ其意スヘキ箇所ヲ避ケルヘシ、或ハ其意ス  
 欲ニ坐封セシメ、大ニ其意ヲ顯シ、或ハ其意スヘキ箇所

第一編 各教科目教授法

第一章 修身科

道德上ノ教訓ハ、實ニ身體及智力上ノ教訓ト並立セシムヘ  
 キノミカラズ、猶ホ一層貴重スヘキモノナレバ、修身科ハ讀  
 書習字等ノ一教科目ト共ニ比肩スヘキモノニアラス、故ニ  
 道德上ノ教訓ハ、單ニ之ヲ修身科ノ時間ニノミ依頼スヘキ  
 ニアラス、何レノ教科目ト雖モ能ク道德上ノ教訓ヲ附  
 帶セサルヘカラス、凡ソ身體及智力上ノ諸教科目ハ皆德ニ  
 入ルノ門ニシテ、道德ハ諸教科目ヲ修ムルノ究竟目的トモ  
 謂ツヘシ、サレハ偶然ノ事件ニシテ苟モ道德教訓ノ材料ト  
 ナルヘキモノアレハ、其教場ト遊歩場トヲ問ハス、直ニ取テ  
 教訓ノ資ニ供スヘク、又各教科目ヲ教授スルニ際シテモ、此



教科目ニ關セル道徳上ノ原素ヲ發育スルコトヲ忘ルヘカ  
 ラス、即チ歴史ニ於テハ尊王愛國ノ志氣ヲ養ヒ、習字ニ於テ  
 ハ清潔整齊ノ習慣ヲ養フカ如シ、  
 道徳上ノ教訓ハ、學校教科ノ全體ニ關セシムヘシト雖モ、特  
 ニ修身ノ一教科目ヲ設クルコト甚々必要ナリ、何トナレハ  
 道徳上ノ能力モ身體及智力上ノ能力ニ均シク、秩序整頓セ  
 ル教授ニ由リテ益發達スルコトヲ得ヘケンハナリ、  
 道徳上ノ教授ハ、教訓ノ外ニ模範ト練習トヲ必要トス、兒童  
 ハ模範的ノ動物ナラハ、自然ニ其交ハル人ノ行儀ヲ見習フ  
 故ニ教師ハ常ニ身ヲ正フシテ其言語動作ヲ慎重セサルヘ  
 カラス、又生徒ニ教授セシ所ノ正道ヲ必ス躬行實踐シテ好  
 キ習慣ヲ得シムルコトヲ務ムヘシ、凡ソ誠實ト熱心ト忍耐

學科常ニ教師ニ缺クヘカヲサカセテナク、修身ノ教授  
 於此時ニ必要ナリトス、若シ教師ニ此諸徳ヲ缺クハ  
 小テハ、如何ニ教授法ヲ巧ニスルモ、決シテ生徒ヲ信誠ニ  
 感化セシムルコト能ハサルヘシ、日本國況ニ於テ、  
 修身科ニ於テ教授スヘキ事項ハ、豫メ順序ヲ整ヘテ一定ノ  
 科程ヲ立テサカヘカラス、若シ然ラスシテ其都度臨時ニ教  
 授スヘキ事項ヲ撰擇スルカ如キコトアラハ、切角ニ教授シ  
 タル事項モ、單ニ一時ノ感情ヲ惹起スルノミニ止マリ、忽ニ  
 シテ忘却シ、絶エテ心裏ニ道徳ノ基本ヲ形成スルコトナカ  
 ルヘシ、  
 尋常小學校ニ於テハ易ヨリ難ニ進ミ、實物ヨリ思想ニ入ル  
 ノ序列ヲナシ、事物分析法若クハ事物保合法ニ從ヒテ、日常



ノ作法ト諸種ノ昔話トヲ併課シ、又之ニ交フルニ賢哲ノ略傳ヲ以テスヘシ、而シテ其第四學年ニ於テハ最早尋常小學校ヲ卒業スルコトナレハ、爾後再ヒ學校教育ノ惠ニ浴スルコト能ハサルモノアルヲ以テ、人間一般ノ心得ノ端緒ト日本國民タル義務等ヲ教授セサルヘカラサス、尤モ父母タルノ心得ハ之ヲ授ケサルヲ可トス、

高等小學校ニ於テハ道德ニ關スル歴史上ノ談話ヲナシ、之ヲ交フルニ聖賢ノ嘉言善行ヲ以テシ、其學年ノ進ムニ從ヒテ更ニ人間一般ノ義務ト心得、竝ニ日本國民タルノ義務ト心得等ヲ教授セサルヘカラサス、而シテ其方法ハ時ノ宜キニ從テ、論理分析法若クハ論理保合法ニ由ルルヲ、但シ尋常小學校計高等小學校トナ間ハス、其教授ハ成ルルハ之ヲ開發的

修身科ハ何レノ教科トシテモ關係最モ深ク、或ハ此科自テ道德歴史ト稱スルモ可ナリ、而シテ其教科書ハ專ニ行文ヲ易ヨリ難ニ進ムヲ求メシテ、事實ヲ易ヨリ難ニ進ムヲ求メシテ、又兒童ノ見聞尙ホ狭ク思想未ダ完カラザレバ、大人ノ認メテ平易トスル事實モ兒童ニ尙ホ困難ナルコトアリ、故ニ務テ兒童ノ思想ニ入ルベキ事實ヲ撰ミ、且テ成ルルヘク當時ノ事情ニ適シ、兒童ノ今日實地ニ行ハ得ベキ事項タルヲ要ス、若シ然ラザレバ修身科ハ徒ニ一場ノ談柄タルニ過キズシテ、決して躬行實踐ノ好習慣ヲ得シムルコト能ハサルナリ、故ニ現今ノ教科書中不完全ナル個處モアラハ、教授ノ際當時



ノ事情ト生徒ノ現状トニ照シ、其順序ヲ變換スヘシ、修身科ヲ教授スルニヨリテ、口授筆記ニヨルモノト、教科書ニヨルモノトノ二種アリ、口授筆記ニヨリテ教授スルニハ、前述ノ方法ニ由リ、該日教授スルキ事項ヲ口授シ、教授終ルノ後其大要ヲ黑板ニ記シテ之ヲ讀マシメ、兒童ヲ稍讀ミ得ルニ至リテ、其教授スルキ事項ヲ簡明ニ談話セシメ、然ル後筆記ヲ其復習ニ便セシムルニ思フ、而シテ其帳簿ハ時日ヲ定メテ之ヲ檢閱スルヘカラス、但尋常小學校第一二學年ニ於テハ、之ヲ筆記スルニハ、極ムト甚ク難キヲ以テ、敢テ然ラスルニ及バズ、然ルニ口授筆記ノ法ハ之ヲ寫スル時間ヲ要シ、且ツ其筆記スル事項ハ單ニ大要ニ止マリ、圖畫ヲ補ヒテ大ク誤寫ノ弊ヲ免レサレハ、之ヲ誦讀スルニ趣味尤モ少シ、從テ生徒ヲ

得其筆記ニヨリテ記憶習熟ヲ効セ收メ、其後口授ノ能ハズ、是等ノ短處ナルヲ以テ近來ニ至リテハ、單ニ修身科ニ限ラズ、他ノ教科目ニ於テモ、教科書ニヨリテ教授スルノ説尤モ勢アルニ至レリ、蓋シ教科書ノ善良ナルモノアリキニ於テハ、勢ヒ口授筆記ノ法ニヨリテ得ズ、然レトモ是レ常法ニアラス、教科書ノ善良ナルモノアリキニ至レバ、固シク之ニヨリテ教授スルノ勝タル如カ按ル所アリ、且モ教科書ニヨリテ教授スルニハ、先ツ其事項ヲ口授シ、然ル後書籍ヲ出シテ之ヲ讀マシメ、生徒ヲ稍讀得ルニ至レバ、書籍ヲ机上ニ置キ、談話ヲ調子ヲ以テ簡明ニ口演セシムヘシ、

三三 第三章 讀書科

人間世元來社會ヲ結成スルニキ原質又動物ニ依テ、到底孤立



シテ世ニ處スルコト能ハサレハ、其見聞スル所ニ從ヒテ常ニ想ヒ起スコトアルヘシ、此時ニ當リテ互ニ之ヲ傳知セシムル方便ナカルヘカラズ、而シテ其方便ハ種々アルヘシト雖モ、言語ヲ以テ最トス、然レトモ言語ハ甲ノ口ヲ出テ、乙ノ耳ニ入ルト同時ニ忽チ消滅シ去リテ、之ヲ以テ保存シ得ヘキモノニアラス、故ニ又之ヲ萬里ノ外ニ達セシムルコト能ハサレハ文字ナル符號ヲ使用シテ言語ヲ寫シ、之ヲ看テ以テ實體ヲ想察セシムルモノアリ、即チ之ヲ文章ト云フ、撰書ハ今人若クハ古人カ其思想ヲ表記シタル文章ヲ看ク、之ヲ己レカ言語ニ表出セツ、其思想ノアル所ヲ明察シ、其主意ヲ存スル所ヲ了得スルナリ、然レトモ幼稚ナル兒童ハ尙其此ノ如キ應用ノ能力ニ乏シケルハ、其最初ニ於テ所

謂實物課ヲ教授スルニ同シク、主トシテ智識ノ受納貯蓄ト言語ノ練習トヲ爲シテ、他日純粹ニ讀書ヲ授クルノ素地ヲナスハ、而シテ此時ニ於テハ讀書ト作文トノ區別ヲ立テサレトモ、作文トシテハ主トシテ書取ヲ爲シテハ、又書取ノ際ハ一々文字ノ書方ニ注意シテ習字ノ助ケヲナサ、ルヘカラス、必竟讀書作文習字ノ三者ハ合セテ國語ノ一科ヲナスモノナレハ、其相關係シテ須臾モ離ルヘカラサルハ亦固ヨリ言ヲ換タサルナリ、讀書作文習字ノ教授方ハ、其最初ニ於テハ相聯接シテ劃然區別シ難シト雖モ、漸次ニ相遠サカリ、終ニ各獨立ノ教授ヲナサ、ルヘカラサルニ至ルハ、猶ホ兄弟姊妹ノ食ヲ共ニシ衣ヲ傳ヘテ一家ニ住スルモ、己ニ成長スルトキハ各自ニ業



ヲ執リ事ニ從ヒテ獨立ノ生計ヲナスカ如シ、而シテ此三科  
 目ノ終始相關係シテ全ク相離ルヘカラサルハ、亦同胞ノ分  
 レテ獨立スルモ猶ホ親族ノ關係ヲ失ハサルカ如キナリ、  
 讀書ハ發音ヲ正フシ言語ノ練習ヲナスヲ以テ重要ナル目  
 的トスルカ故ニ、其教授中生徒ノ讀聲及講話ノ調子ニ注意  
 シ奇異ノ節ヲ付ケサラシムヘシ、抑言語ノ練習ハ人生ニ必  
 要ノ事ナレトモ、今日ノ學校ニ於テハ別ニ此科目ヲ設ケテ  
 フサレハ、讀書ニ於テ必ス之カ練習ヲサシムルヘカラス、又  
 讀書教授ノ際ハ始メヨリ能ク文法ニ注意シ、生徒ヲシテ自  
 然ニ文法ニ熟達セシムルコトヲ務ムルベシ、又國語ヲ立テ  
 讀書教授ハ先ツ片假名ヲ以テ始ムルベシ、平假名ハ家庭時モ  
 關係上多少便利ナルコトアルヘキモ、其曲線ヨリ成ルルヲ

以テ直線ト成ルル片假名ハ簡易ナル如ク、國語ヲ立テ  
 片假名ハ教授ハ古來五十音ノ順序ニ從ヒテ之ヲ教授セシ  
 ム、斯クテハ無味卑趣ナルハミ交ラス、發音上文字上難易ハ  
 次序宜クキリ得ス、近來種々ノ順序方法ヲ撰ブモ、行アリト  
 雖モ言語法ヲ以テ其端ヲ開クヲ尤モ適當トス、即チ先ツ生  
 徒ノ周圍ニアリテ最モ近易ナル實物中之チ音聲ニ發シテ  
 尤モ簡ニ之ヲ文字ニ見ハシテ尤モ易キモノヲ撰ビ、其物名  
 ナ問ヒ其性質ヲ尋テ然ル後其文字ヲ黑板ニ書セシメ、知ラ  
 サレハ教フ以下之ニ倣フ後種々ニ之ヲ練習スヘシ、此ノ如  
 クニシテ二字綴リヨリ三字綴リ四字綴リト、可成的字数ノ  
 順序ニ從ヒ且ツ發音上文字上ノ難易ヲ考ヘテ單語ヲ授ク  
 ヘシ、但單語ノ教授ハ事實ノ上ニ關係少クシテ趣味乏シケ







交へテ當目教授スヘキ讀本中ノ談話ヲナシ、書中若シ圖畫ヲ挿入スレバ之ニ依リテ説明ス。次ニ生徒ハ未タ知ラサル字句ヲ摘書シ、其讀方意義及文法等ヲ問答シ、次ニ書ヲ開カシテ教師之ヲ一讀若クハ再讀シ、或ハ優等生ニ誦讀セシメテ漸次劣等生ニ及ホスルニシ、其讀方ハ行文中、或ハ記者ノ言或ハ某ノ談話、或ハ書狀文等其體裁同シカニ依リテ異ニス。殊ニ此トキハ、其音聲ノ抑揚ヲ考ヘテ其讀方ヲ異ニスヘシ、殊ニ文章ノ段落句讀等ヲ明ニセサルヘカラス、又講義ハ教師之ヲナシ、或ハ優等生ヲ指名シテ之ヲ讀ムルニシ、漸次劣等生ニ及ホシ、最後ニ其大意ヲ問答スヘシ、但シ談話體ニ記載セル文章ハ別ニ講義スルノ必要ヲ認メ、其讀方終ニ後ニシテ、唯其大意ヲ問答スルノ法ヲ可也。其意ヲ、

又高學年ノ讀書科ニ至リテハ、書中ノ事實錯綜セルヲ以テ、其講讀スル所ニ其主意大略幾個ニ分ルルニキリ、問答然ルニ後一部ヲ、其主意文法等ヲ問答スルヲ以テ適當トシ、總ニテハ生徒ノ講讀セザル毎ニ、他ニ生徒ヲシテ其不審ヲ所ニ問ハシ、其誤謬ノ個處ヲ是正シ、要スルニ至リ、復習練習ノ一部トシテ、前日學習セザル所ニ就キ、尋常小學校ニ於テハ、日々單語短句ヲ書取ラシム、高等小學校ニ於テハ、時々單語短句ノ外ニ、以テ文章ヲ書取ラシムヘシ、然ルニ、ハ文字ヲ構造及假名遣ヲ覺ル得テ、讀書ノ際ニモ輕ク看過セザル故ニ、作文科ニ向テ裨益アルヲ以テ、少シクシテ、其教授方法ハ教師先以一讀シ、生徒ハシテ黑板ニ記シ、其真正否ヲ問答シ、或ハ教師一讀シテ各生ハ石盤ニ記サシメ、



然ル後同一文字句ヲ黑板ニ記シ若クハ某生ヲ指名シテ記  
 シテ相対照シ以テ其正否ヲ判シ、或ハ教師以テ誦讀スル  
 ヲ直ニ帳簿ニ筆記セシメテ檢閲スル等種々ノ活法ニ出  
 ン、又練習ノ際數生徒ノ書物ヲ持シテ順次ニ机側ニ立  
 テ、甲生前ノ句ヲ讀メキハ、乙生次ノ一句ヲ讀ミ、丙  
 生又其次ノ句ヲ讀ムカ如クスルモ亦一法ナリ、然レモ  
 英語ヲ教授セザル學校ニ於テハ、算術科ニ於テ亞刺比亞數  
 字ヲ授ケ、其内如ク、讀書科ニテ羅馬字ヲ教授スルナ良トス、  
 何トモ近來普通ノ文書、羅馬字ヲ交マズ、其不便有之  
 ルヲ以テ、若シ其讀方書方ヲ知ラザレバ其不便少ク、然  
 レモ又羅馬字ヲ教授スル上ニ於テ之ヲ發音ノ練習ヲ  
 又テ發音ノ練習ノ發音ヲモ覺ラシメ、其發音ノ練習ヲ

本モ爾第三章ニ作文科ニテ、又或ハ其内ニハ、國ハハ  
 作文ハ言語ヲ文章ニ寫出スル方法ニテ、其理想像等  
 能力ヲ要ス、然レモ幼稚ノ生徒ハ思想未ク發達セ、其  
 直ニ文章ヲ作ラザルコト能ハス、故ニ先ニ實物ヲ依リテ  
 生徒ノ觀念ヲ開發シ、然ル後言語文章ヲ學習ニ及テ、漸  
 進ニ及テ、其ハ他大ニ言語ヲ聞キ取リテ之ヲ文章ニ俾リ、  
 終ニ自己ノ工夫及想像ニ成レル文章ヲ作ルニ至ラ、爾  
 後、是ヲ以テ小學校ニテハ低學年生ノ作文ハ概テ教師ノ誘  
 導的ニ成ルニシテ、他ノ自作的ニ依リテ自己ノ力能  
 ク作リ得キ、唯高學年生ニ過キス、然レトモ低學年生ニ  
 モ時々之法試、漸ルテ可トス、其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ  
 作文ヲ授クルニテ、生徒ヲ先ニ文法ノ大要ヲ知ラシメ



ヘシ、然レトモ最初ハ文章ヲ作爲シツ、自然ニ文法ヲ覺ラシムルヲ務メ、漸ク進ムニ及ヒテ更ニ文法ヲ授クヘシ、但シ豫メ各學年ニ授クヘキ適當ノ程度ヲ定メサルヘカラス、作文ハ讀書ト關係スルモノナレハ、該科目ノ教授ハ絶エス讀書ニ於テ學習シタル文章ノ次第ヲ逐ヒ、且ツ文法上ノ順序ニ從ヒテ相應ノ文章ヲ作爲セシメサルヘカラス、而シテ其始ハ兩科目ノ教授法幾ク區別ナケレトモ、先ハ順序ヲ逐ウテ之ヲ記サハ、單語ノ文ハ其讀書ニテ學ビ得タル文字ノ順序ニ依リ、物名ヲ綴リテ之ヲ記サシメ、或ハ之ヲ書取ラシメテ其方法ヲ練習スヘシ、又練習ノ爲メ時々數個ノ假名ヲ黑板ニ書キ、生徒ヲシテ彼是ヲ組合セテ各、既知スル所ノ物名ヲ綴ラシムルヲ求メラルヘシ、又短句ヲ授クルニハ、例ヘハ

「ウのウはウ」ヲ以テ梅ヲ示シテ其名ヲ問ヒ、次ニ花ヲ指シテ其名ヲ問ヒ、然ル後梅ト花ト其關係ヲ示シテ之ヲ字ニテ表ハスコトヲ知ラシメ、之ヲ言語ニ表出スルコトヲ練習シテ言語ノ如ク之ヲ書取ラシムヘシ、又練習トシテ「ウめの」ト板上ニ記シ、生徒ヲシテ枝、實、葉等ヲ其下ニ入レシムルコトアルヘシ、又時下シテハ話語ヲ文語ニ改メシムルヲ良トス、例ヘハ「よきね」ト云フ作文ヲ授ケントスルニハ、猫或ハ其圖畫ヲ示シテ善キ猫ナル觀念ヲ開發シ、俗語ノ儘ニテ「よいね」或ハ「いいね」ト板上ニ書シ、然ル後談話上ニテハ此ノ如クニ言ヘトモ、文章ニテハ「よきね」ト書クヘキコトヲ開發シテ之ヲ書取ラシムヘシ、又練習ニハ教師時々俗語ニテ唱ヘ生徒ヲシテ之ヲ文語ニ書取ラシムルコトヲナスヘシ、短句



之教授終リテ短文ニ移ルトキハ、生徒ヲシテ自然ニ文ト句トノ區別、即チ句ハ長クトモ思想ノ完全ナルモノニアラスシテ、唯或觀念ニ過キサレトモ、文ハ縱令短クトモ完全ナル思想ナルコトヲ知ラシムルヲ要ス、又此際ヨリ漸次ニ句讀ヲ切リ方ヲモ知ラシムヘシ、則チ得テ書キ讀ムモノハ、從來假名文ヲ授クルハ初學年生ニ止マリテ、高學年生ニ至レハ漢字交リ文ノ書キ授クルヲ以テ、遂ニ之ヲ實地ニ應用スル場合并至ラス、其教授者所謂不徒勞ニ屬スルモノアリ、蓋シ、假名遣ニ差違多キヨリ文章ヲ紊亂セルモ、其原因主トシテ假名交リ中絶セル言アル處出レハ、可成的假名文ヲ學習引伸シ、然、漢字交リ文ト共ニ高學年生ニ至ラシマラスコトヲ要ス、新教則ニ尋常第三學年終モ假名文ヲ加ヘ、然レ、蓋

シ此ニ見ルヲ、則チ由來漢字交リ、假名交リノ二種トシテ、漢字交リ文ヲ教授法ニ假名交リ文ヲ大ニ差置キ、唯其異同所由先文其作文ニ要スル各キ漢字交リ問答シテ之ヲ板上ニ示スルヲ用ノモ、但シ讀書ニ於テ既ニ學習夫了シ生徒ヲ大抵記憶スル文字ノ外、別ニ所用ナク、又上認ルル能ハズ、更ニ板上ニ書キ授クル可ナリ、又教師ハ其必要ヲ認メ、又漢字表記ニ用ルル後、生徒ヨリ他ノ漢字ヲ問フ者アルモノハ之ヲ記示セシメ、ヘシ印シ内ニ假名ニテ書カシムヘシ、假名及漢字交リノ短句短文稍、熟スルニ及ヘハ、記事文ト書翰文トヲ教授セサルヘカラス、然レトモ書翰文ハ形式ヲ主トスルモノナレバ、依テ以テ文章ノ發達ヲ望ムヘキニアラス、又形式ハ成ル可ク年長ノ生徒ニ課シテ直ニ應用練習ス



ルコトヲ要スヘキヲ以テ、低學年ニ於テハ主トシテ記事文  
 ナ作ラシムルヲ良トス、記事文ハ、修身、讀書、地理、歴史、理科等  
 以テ已ニ學習シタル事項ヲ題トシ、略生徒ノ思想ヲ誘導シテ  
 之ヲ作ラシムヘシ、其文ノ種類ハ短文ヲ連テテ、短文トナシ、  
 或ハ相當ノ文字ヲ與ヘテ之ヲ文中ニ填入セシメ、或ハ俗語  
 或ハ談話ヲ目演シ若シハ板上ニ記シテ、之ヲ文體ニ譯サシメ  
 或ハ趣意ヲ要項ヲ與テ之ヲ作文ニ變換スルニシテ、又書翰文ハ先  
 在所姓名ト手紙之上書封以テ方決教ヘ、次ニ俗語ト對照シテ  
 必要ノ用語例ヘハ差上候、早々以上ノ類ニ書式下ヲ授テテ  
 俗語漢口土文共譯スルニ練習ヲ先シ、次同ノ方法ヲテ  
 受取書及送狀ノ類ヲ授テ、手紙ノ體裁ヲ知ラシメテ、其練習  
 ナルニ共ニ、扁書、願書、證書ノ類ヲ交ヘ教フヘシ、但シ手紙

亦記事文ノ如ク、俗語ヲ譯シテ圖形ヲ可成ス、又時々電信  
 文ヲモ教授スルニシテ、又ハ總テ作文ノ教授史ニ時々  
 宜シキ計ヲ郵便電信ニ關スル手續、金子入、出書狀、取  
 扱方、印紙貼用ノ事等ヲ詳細ニ教授スルヲ要ス、  
 第四章 (習字科) 習字科ニ於テハ、先ツ文字ノ筆法、結構、即チ字形ノ觀  
 念ヲ開發シ、而シテ後手ノ運用ヲ自在ニシ、意ヲ如ク運筆  
 セシムルヲ法トス、故ニ筆法ト字形ト運筆トハ習字ノ要點  
 ナリ、然ルニ舊來ノ法タル單ニ運筆ノ法ヲ務メテ、筆法ト字  
 形ノ練習トヲ省ミ、加之長キ修行ノ間ニ於テ、幾多ノ迂路  
 ナ歩シテ漸ク自得ノ門ニ入ラシムルモノニシテ、別ニ定マ  
 リタル順序ト方法トヲ缺クカ故ニ、容易ニ能書ノ人ヲ出ス



こと能ハサリセサリ、モ其ノ中ニ容易ニ習書ム人モ出ス  
 筆法ハ古來諸大家ノ經驗ニ依リテ自ラ一定ノ法則アルモ  
 シナリ、例ヘハ一ノ字ヲ書スルニ其起止ニ於テ筆力ヲ極  
 シ、中間ハ緩ク高拱シテ之ヲ書スルカ如シ、而シテ又文字ヲ  
 結合サシテ整美ナクシテサレハカラス、何トナレハ文字ハ  
 元來利用ヲ爲シ生シタルモノナレトモ、漸ク美飾ヲ以テ其  
 目的ノ一トスルニ至リタレハ、文字ヲ結構ヲ均齊ニシテ美  
 麗ナラシムルコトモ亦必要ナレハナリ、  
 習字科ノ教授ハ、先ツ文字ノ原質ヲナルヘキモノヲ取リテ  
 之カ筆法ヲ了解セシメ、然レ後一般諸文字ノ筆法ヲ會得セ  
 ズルヘシ、且ツ單劃少文字ヨリ漸次複劃又文字及ホ劃又、  
 運筆筆法トシテ練習シ、又位置ノ關係ヲ測度シ、術ヲ知リ

シテ字ノ形及明暗、以テ美惡ヲ辨テ雅致ヲ念、且發  
 シムヘシ、然レモ近來ノ所説如ク、單ニ文字ヲ分解シタ  
 ル根原ヲ授ク本ノ旨ニシテハ、習字ノ際毫モ趣味ヲ覺ヘ得  
 ハ適當ト云フヘカラス、然ルニ片假名ハ稍文字ヲ分解シタ  
 ル根原ニ近クシテ、一ノ成立セル文字ナレハ、習字科初步ノ  
 用ニ尤モ適當ナリ、又平假名ハ其用廣キモノナレトモ頗ル  
 習ヒ難クレハ、片假名ノ習練終ルノ後ハ直ニ楷行體ノ漢字  
 ニ移リ、之ト共ニ平假名ヲ交ヘテ、高學年ニ至ルモ尙ホ  
 之ヲ繼續スルヲ要ス、  
 抑、文字ハ如何ナルヲ以テ完全トスルヤ、夫畫ハ眞物ニ迫ル  
 ナリテ秀逸トシ、天然ヲ欺クヲ以テ極トスレトモ、文字ハ人  
 心ヨリ發スルモノナレハ他ニ依ルヘキモノアルコトナシ、



人ノ始テ文字ニ志スヤ、先ツ之カ觀念ヲ發シテ之ヲ記憶シ、  
 後ニ推理ト雅致トノ作用ニ依リテ、心裡ニ其書カントスル  
 所ノ形狀ヲ成スナリ、然レトモ其之ヲ書カンニハ、心之ヲ手  
 ニ命シテ筆ヲ執ラシムルナレハ、手若シ心ノ欲スル所ノ如  
 クニ運用スレハ、則テ完全ト思フ所ノ文字ヲ書キ得ヘシト  
 雖モ、手ハ容易ニ其心ノ儘ニ從フコト能ハサルモノナリ、蓋  
 以、初學者ノ見悪ク曲リタル文字ヲ書クモ、心之ヲ好ミテ此  
 ノ如ク書スルニアラサルナリ、故ニ習字ニ必要ナル所ハ、  
 文字ノ知識ト手腕ノ運用トナリ、而シテ文字ノ知識ハ臨本  
 又ハ教師ヲ實示ヲ仰カサルヘカラス、抑、臨本ヲ要スル所以  
 ハ以テ筆勢ノ如何ヲ問ヒ、以テ結構ノ美悪ヲ知ルニアルコト  
 モ、初學者ニ只其結果トシテ筆跡ヲ見シテ、其原因ヲ考ヘ筆

ノ用法ヲ明シテ教養智力ヲ養ヒシケレバ、獨リ臨本ノ用ニ依  
 ラシメスレバ、教師自ラ筆ヲ執リテ、其用法ヲ示シ以テ之ヲ  
 理解セシムルコト、モ書スルニハ、臨本ヲ用ヒテ、其ノ筆  
 書體ハ初メニハ楷行體ヲ可トス、但シ真正ノ楷書ニアラサ  
 レハ、眞ノ字形ヲ知り難ク、以テモ、習字難ク、以テ實用ニモ稍  
 遠キ患アレハ、先ツ楷書ニ近キ行書ヨリ初メテ、漸次ニ行體  
 草體ニ移ルヘキナリ、モ眞ノ楷書ニ移ルニ至ルモ、其  
 習字ノ際注意スルヘキ第一ハ清潔ニシテ、其次ハ沉默ニ在リ、  
 前者ハ能ク文具ノ整頓ヲ圖リテ、手指紙片ヲ毫モ汚サズ、  
 シムルヲ務メ、後者ハ心ヲ靜ニシテ、一劃一點モ急遽輕忽ニ  
 筆ヲ運ハシムヘカラサルニ在リ、凡テ心正シケレハ、則テ手  
 正シク手正シケレハ、則テ筆モ亦正シキモノナリ、



其他硯ハ水凡ソ一勺ヲ容ルヘキ軟質ヲモリテ用ヒ、墨ハ太クシテ磨リ易キモノヲ撰フヘシ、而シテ之ヲ磨ルニハ重按輕推尤モ鄭重ヲ加ヘカルヘカラス、又其濃淡ハ紙ニ浸染セサルヲ適度トス、筆ハ軸ノ太サ直徑凡ソ三分長サ凡ソ五寸六七分許ニシテ、穂ヲ墨汁ニ浸スコトハ凡ソ其三分ノ一タルヘシ、筆穎ハ能ク齊フテ更ニ毛絲ノ亂レサルヲ良トシ、其使用終リタル後ハ直ニ紙ニ横磨シテ之ヲ拭キ置カシムルヘシ、紙ハ最初録引若クハ圓形ノ下者敷キテ用セシムルモ、永ク之ヲ用ヒレシムルガ如ク、而シテ其穂五ノ漸書ニヤセセ執筆ノ法ハ楷書ヲ書スルニハ穂ヲ離ル、コト凡ソ一寸、行書ニハ三寸、草書ニハ三寸許ノ所ヲ良トス、凡ソ筆頭把ルニハ、天指ヲ上節ト食指ヲ上節間トシ之ヲ握リ、中指ハ端ト名指ノ爪肉トニテ又之ヲ據フヘシ、而シテ大指ト食指ト力

去主トスル上ニ、中指ハ筆ヲ鉤キ下シ、無名指ハ筆ヲ揚ケテ上タルガ故ニ此二指ハ運轉ヲ主トスルナリ、小指ハ無名指ニ附着シテ之ヲ助ケテ一ニ導送ニ便スルガ如ク、ハモリ又習字ノ時ハ姿勢ハ、腰部及體ヲ端正ニシテ懸腕ノ法ニ由ラシメ、左手ハ必ズ机端ニ輕着セシムルヘシ、而シテ模倣シテ是レヲ習フニ、能ク全體ノ結構ト筆法ト夫會得キシメ、而シテ後始テ筆ヲ下サシムルヘシ、彼一劃毎ニ臨本ヲ看ルカ如キノ煩累ハ避ケシ書サルヘカラス、モトモテ大筆近來習字ノ始メニ石筆ヲ以テ石板ニ習ハシメ、又諸教科目ハ筆記ニ多クハ鉛筆ヲ用ヒテ之ヲ習フ、自ラ手ノ運用ヲ鈍クシテ縱横自在ニ爲サシムルガ如ク、習字ノ運用亦妨ク



ルコトアリ、故ニ習字ノ最初ニ於テハ位置ノ關係ト測度ノ法トヲ學ハシムル外、都テ毛筆ヲ用ヒシムルヲ良トス、又文字ノ大サハ近來實用主義ノ流行セリヨリ妄リニ小字ニ偏シ爲ニ習字ノ發達ヲ害スルコト少カラス、サレハ大字ニ多クノ墨汁紙ヲ費シ、且ツ實用ニモ疎キ嫌アレトモ、習字科ヲ進歩上低學年生ニ於テ用ヒシテ、漸次文字ヲ小ニシテ實用ニ近寄ルニシテ、而シテ習字ニ要スル所ノ紙料野入美ノ紙ヲ用ヒザルヲ可トス、習字ニ用ラレ所ノ文字ハ成程ハ國讀本中ノモノヲ撰フベシト雖モ、若シ生徒ノ未タ知ラザル文字アルトモハ、其始ニ於テ十分ニ其讀方ト意義トヲ教ヘザルベカラズ、往時ノ學問風ハ習字ヲ多ク教ヘタルニ自ラ實際ノ必要ニ違

當セルモノト謂フヘシ、何ナリトシテ第一ニ其文辭ノ讀方ト意義トヲ習ヒ、第二ニ文字ノ書方ヲ習ヒ、第三ニ其文字ノ多ク手紙ノ文章ヲ習ヒ、自然作文ノ法ニ通スヘシ、故ニ往時ノ習字風ハ單ニ習字ノ事ヲ學ハシメ、而シテ其ノ法ヲ自ラ讀書作文習字ノ三教科目ヲ兼習セザルモノナリ、蓋シ習字科ニ能ク文字ニ親ミテ音ニ讀方意義ニ通スルヲモテ、其文字ノ用法ヲモ併セ覺ユルノ益アリトス、習字科ニ於ケル初步ノ教授方法ハ硯ニ水ヲ注シ、墨ヲ磨リ、且ツ止メ、一舉ニ動都テ號令ヲ以テ一齊ニ爲サシムヘシ、而シテ教師ノ別ニ製スル所ノ漆塗リノ小黑板、若クハ紙ヲ黑板ニ掩ヒ、一字毎ニ其目前ニ於テ筆ヲ揮ヒテ之ヲ運筆ノ法ヲ覺ラシメ、然ル後生徒ヲシテ筆ヲ下サシムヘ



シ、此際ハ教師自ラモ筆ヲ携ヘテ各生徒ノ机間ヲ巡リ、一々其法ヲ解シタルヤ否ヤヲ視察シ、若シ誤ルモ以テアルトキハ直ニ之ヲ匡正スヘシ、又或時ハ生徒ニ筆ヲ下サシムル前、其筆法ト文字ノ結構トヲ問答シ、一ニシテ生徒ヲシテ板上ニ書セシムル式トアルハ、生徒ノ漸ク進歩スルニ從ヒテハ漸ク其方法ヲ省略スルテ之ヲ教授スヘシ、要ニハ益ヲ得ルニ在リ、蓋第五章算術科文字ニ關シテ亦同式意義ニ關シテ教則太綱ニ其旨ヲ示シ、小學校ノ算術ハ日常ノ計算ニ習熟セシムル兼テテ思想ヲ精密ニシ、傍ヲ生業上有益ナル知識ヲ與フルヲ以テ其ノ目的トセリ、凡ソ何レノ教科目ヲ問ハス、直接ニ實用ノ益ヲ得シ、間接ニ或心力ヲ練磨スルニ様々目的ヲ得サルハナシト雖モ、算術科ハ殊ニ此ニ様々目的ヲ達スル

ニ適ヒテリ、蓋シ日常ノ事物ニ關シテ數ニ關係セサルモノナク、從テ之ヲ計算スルニ必要甚ク切ナリ、是レ小學校ノ算術ハ、專ラ日常ノ計算ニ習熟セシムルヲ以テ其ノ目的トスル所以ナリ、然レトモ兒童ノ幼稚ナル、其ノ根本トナルハ、事實知識ニ乏シク、縱令之アルモ甚ク曖昧ニシテ、明亮正確ナラサルカ故、其ノ儘ニ看過スルトキハ、決シテ第一ノ目的ヲ達スルコト能ハス、且ツ計算ハ一步ヲ誤レバ、甚シキ誤謬ニ陥リ易キカ故、一々精密ニ取扱ハサルヘカラス、從テ彼以緊要缺クベカラサル心力、即チ精密ナル思想ヲ養成シ、曖昧ナル事實ヲ擯斥スルノ習慣ヲ得セシム、是レ學校ノ算術ハ、實用上ニ於テハ日常ノ計算ニ習熟セシム、傍ヲ生業上有益ナル知識ヲ與フルヲ以テ其ノ目的トシ、心力練磨以上ニ於



テハ思想ヲ精密ニスルヲ以テ其ノ目的トスル所以ナリ、  
教授材料ノ撰擇及順序ハ、只管教授ノ目的ヲ達スルニ適當  
ナルコトヲ要ス、今其ノ大要ヲ叙述スルコト左ノ如シ、  
尋常小學校ニ於テハ、先ツ十以下ノ數ノ範圍内ニ於ケル計  
へ方及加減乗除ヲ授ケ、次ニ二十以下、次ニ百以下、次ニ千以  
下萬以下ノ數ノ範圍内ニ於ケル計へ方及加減乗除并ニ通  
常ノ小數ノ概略ヲ授ケ、兼テ命數法・記數法・算法上ノ記號  
及九々表等ヲ授クヘシ、  
又初年ヨリ漸ク度量衡貨幣及時刻ノ制ヲ授ケ、之ヲ日常ノ  
事物ニ應用シテ、其ノ計算ニ習熟セシムルヲ可トス、  
尋常小學校ニ於テハ、土地ノ情況ニヨリ、或ハ筆算或ハ珠算  
ヲ專用シ、場合ニヨリテハ筆珠算ヲ併用スルモ可ナリ、

高等小學校ニ於テハ、筆算ヲ用ヒ、初ハ繁數即チ度量衡貨幣  
及時刻ノ計算ヲ練習セシメ、漸ク進ミテハ簡易ナル比例問  
題ト通常ノ分數・小數トヲ併セ授ケ、又學校ノ修業年限長キ  
トキハ、更ニ稍複雑ナル比例問題及日常適切ノ百分算ヲ授  
ケ、土地ノ情況ニヨリテハ、開平・開立及簡易ナル求積若クハ  
日用簿記ノ概略ヲ授ケ、或ハ珠算ヲ用ヒテ加減乗除ヲ授ク  
ヘシ、尤モ尋常小學校ニ於テ珠算ノミヲ學ビタル兒童ニハ、  
最初筆算ヲ用ヒテ加減乗除ヲ授クルコト甚タ必要ナリト  
ス、

算術科教授ノ方法モ亦其ノ教授ノ目的ニ適合セサルヘカ  
ラサルコト論ヲ俟タサルナリ、即チ

## 第二、充分精密ニ理會セシメ、

### 第五章 (算術科)



第二、敏速ニ而モ誤謬ナキ様ニ運算セシメ、  
 第三、殊ニ暗算ニ熟達セシメ、  
 第四、應用ヲ自在ナラシメ、  
 第五、常ニ明亮正確ナル言語ヲ用ヒテ算式運算ノ方法及  
 其理由ヲ説明セシメ、  
 第六、其ノ問題ハ他ノ教科目ニ於テ授ケタル事項ヲ適用  
 又ハ日常適切ノモノヲ撰ビ以テ其ノ目的ヲ達セシ  
 ト期セサルヘカラス、  
 然リ而シテ如何ニ運算ニ習熟セシメ、如何ニ暗算ニ熟達セ  
 シメ、如何ニ應用ヲ自在ナラシメ、如何ニ明亮正確ナル説明  
 ヲ為シ、如何ニ算術トスルモ其初メ充分精密ニ理會セシムルニ  
 至ラザレバ所謂本ヲ正サス以テ末ヲ責ムルモノ、到底勞

テ功ナカレヘシ、故ニ先ツ精密ニ理會セシムルノ方法ヲ述  
 ブヘシ、  
 抑、教科目ノ種類、材料ノ如何ニ拘ハラズ、凡ソ事物ヲ理會セ  
 シニハ、常ニ既知ヨリ未知ニ進マサルヘカラスト雖モ、算術  
 科ノ如ク精密ナル理會ヲ要スルモノニアリテハ殊ニ然リ  
 トス、故ニ算術科ノ初步ハ兒童ノ親シク觀察經驗セル實物  
 ヨリ始メサルヘカラス、然リト雖モ、其ノ實物ニシテ單ニ線  
 木片、小石、計數器等ノミナルトキハ、興味ヲ缺キ、從テ兒童ノ  
 厭倦ヲ來スノ憂アルカ故、宜シク此等ノ實物ヲシテ他ノ教  
 科目ニ於テ授ケタル事項、例ヘハ修身、讀書、地理、歴史等、談  
 話中ニアリシ父母、兄弟、家屋、山岳、或ハ距離等ニ聯絡セシメ、  
 又土地ノ情況ヲ斟酌シテ日常適切ノ事項ニ關係セシムヘ



シ、筆珠算ノ問題ノ如キモ亦此等ノ事實ニ關係セシムルヲ可トス、蓋シ斯クスルトキハ理會ヲ精密ニシ、兼テ生業上有益ナル知識ヲ與フルコトヲ得レハナリ、然レトモ兒童ノ心意稍發達スルニ至レハ、漸次ニ實物ヲ離レテ抽象的ニ教授スヘキハ勿論ノコトナリトス、又十以下ノ數ハ、其他ノ數ノ基本トナルモノナレハ、殊ニ能ク其ノ觀念ヲ開發シ、其ノ性質ヲ理會セシメサルヘカラス、十以下ノ數ノ理會不充分ナランカ、其他ノ數ヲ精密ニ理會セシムルコト斷シテ能ハサルナリ、故ニ初ハ一數宛進メテ一々之カ分解總合ヲナシシメ、且ツ反覆丁寧ニ練習スルヲ要ス、即チ一數ノ教授終ル毎ニ必ス前ニ授ケタル數ノ練習ヲナシシ、以テ之ヲ統括セシムヘシ、從テ之ニ費ス時間ハ少ク

トモ一學年間ノ半以上タラサルヘカラス、但シ十以上ノ數ニ至レハ、適宜ニ一階級ノ數ヲ同時ニ教授スルヲ可トス、蓋シ斯クノ如クスルトキハ其分解總合ヲ知ラシムルト同時ニ、數ト數トノ關係、并ニ數ノ次第ニ増大スル模様ヲ理會セシムルニ便ナレハナリ、十以下ノ數ハ、其他ノ數ノ基本トナル如ク、通常ノ整數ハ繁數、小數、分數等ノ基本トナルモノナレハ、是レ亦充分ニ其解セシメサルヘカラス、繁數ハ其化法ヲ精密ニ理會セシムヘシ、化法ノ理會充分ナレハ、其他ノ計算ハ勞セスシテ理會シ得ヘシ、又小數中簡易ナルモノハ、十進繁數ヲ應用シテ之ヲ理會セシムヘク、通常ノ分數及小數ハ其關係甚タ密ナルカ故、互ニ相聯絡シ、殆ト同時ニ之ヲ授クヘシ、且ツ比例問題ハ



主トシテ、歸一法ニ由ルヲ可トス、  
 已ニ充分精密ナル理會ヲ得セシメタル後、亦能ク反覆練習  
 シ、其運算ヲシテ敏速正確ナラシメ、其應用ヲシテ自由自在  
 ナラシメサルヘカラス、然ラサレハ折角精密ニ理會シタル  
 コトモ、次第ニ忘却スルニ至ルヘク、又縱令忘却スルニ至ラ  
 サルモ、實用ニ適セサルヘシ、殊ニ暗算ニ熟達セシムルコト  
 最モ必要ナリ、蓋シ通常世間ニ起ル問題ハ、其數甚ダ簡單ナ  
 ルモノ多ク、從テ其過半ハ暗算ニテ爲シ得ヘキモノナリ、故  
 ニ小學校ノ算術ハ、必スシモ長キ大數ヲ使用スルヲ須ヒス、  
 可成的暗算ニテ短キ小數ニ關スル種々ノ問題ヲ解カシメ、  
 且ツ縱令筆珠算ヲ用フル場合ト雖モ、甚シキ大數ノ計算ヲ  
 ナサシムルノ必要ナキナリ、又暗算ハ筆珠算ヲ授クルニ必

要缺クヘカラス、段階ナルニモ拘ハラヌ、筆珠算ヲ教授ス  
 ルノ際ニ至リ、兎角暗算ヲ利用セス、通常容易ナル加減乗除  
 ヲサスニモ、一々筆珠算ニテ運算スルカ如キ弊アルハ、徒ニ  
 無益ノ時間ト努力トヲ費シ、折角此迄授ケタル暗算ノ効益  
 ナ空シク没セシムルモノト云フヘシ、故ニ務メテ暗算ヲ利  
 用スルノ方法ヲ施シ、筆珠算ハ只暗算ニテ計算シ難キ場合  
 ニノミ用フヘキモノナルコトヲ知ラシメサルヘカラス、又  
 縱令筆珠算ニテ運算セシメントスルトキモ、必スシモ問題  
 ナ黑板ニ記スルヲ要セス、或ハ言詞ヲ以テ之ヲ述ヘ、或ハ緊  
 要ナル數ノミヲ黑板ニ書シ、以テ運算セシムヘシ、此ノ如ク  
 過半ノ問題ハ、口頭ニテ之ヲ述ヘ、且ツ主トシテ暗算ヲナサ  
 シムルトキハ、大ニ實際活用ノ便ヲナシ、又能ク時間ヲ減省



スルヲ得ヘキナリ、獨逸國ノ如キモ、學校ニテハ主トシテ暗算ノミヲ用フルヲ以テ、算術ノ教授時間ニ石盤ヲ用フルコト甚タ稀ナリ、殊ニ尋常小學校第三學年迄ハ、殆ト全ク暗算ノミヲ課シ、所謂筆記ノ計算ハ、只暗算ニヨリテ見出シタル解答ヲ記載スルニ止マルト云フ、國異ナレハ其方法モ亦幾分カ斟酌セサルヘカラサルハ勿論ナレトモ、兎ニ角算術ノ教授ニハ、可成的暗算ヲ用ヒ、筆珠算ハ可成的之ヲ減セサルヘカラス、  
又何レノ教科目ヲ問ハス、言語ノ練習ヲ忽ニスヘカラサルハ勿論ナレトモ、殊ニ算術科ニ於テハ、其算式ノ出ル所以、並ニ其運算ノ方法及理由ヲ、明亮正確ナル言語ニテ叙述セシメサルヘカラス、蓋シ其算式正シク、其運算ニ誤謬ナキモ言

語ヲ以テ之ヲ叙述セサレハ、真正ニ之ヲ理會シタルヤ否ヤヲ知ルニ由ナク、且學生徒ノ心意ニモ其理由及方法ヲ固結セシメ難キノミナラス、精密ナル思想ヲ養成スルニ妨害アレハナリ、  
精密ナル思想ヲ養成スルニ最モ注意スヘキハ、運算及筆記ノ類ヲ齊整綿密ニナサシムルコト是ナリ、故ニ運算ノ順序ヲ區々ニ書キ文字ノ大小等其宜シキヲ得ス、爲ニ誤謬ニ陥ル如キハ、嚴密ニ矯正セサルヘカラサルナリ、  
問題ノ撰擇ニ付テハ、前已ニ一言シタルカ故、爰ニ贅言セス、要スルニ算術科ノ教授ハ、實物若クハ既知ノ事項ニ基キテ、充分精密ニ理會セシメ、其一旦理會スルヤ、又能ク反覆練習シ、運算殊ニ暗算ニ習熟シテ、應用自在ナラシメシコトヲ務



メ、且ツ常ニ明亮正確ナル言語ヲ用ヒテ、算式・運算等ヲ説明セシメサルヘカラス、

第六章 地理科

地理科ハ理學ト文學トニ跨ル所ノ教科目ナレハ、能ク雙方ノ連絡ヲ通スルコトヲ得シムヘシ、從來地理學トハ單ニ地球表面ノ事項ヲ記載スルニ止マリシモノナリト解シタレトモ、今日ニ於テハ寧ロ人類ノ生活上ニ關シ、地球表面ノ狀態ヲ論スルモノトナレリ、故ニ其説ク所ハ人類外圍ノ形勢ニアリテ、吾人ノ歩行スル地上、吾人ノ呼吸スル空氣、吾人ノ田野ニ灌溉スル水流、吾人ノ此陸地ヨリ彼陸地ニ航行スル海洋、水陸ノ中ニ棲息シテ吾人ノ生存ト幸福トニ關係アル動植物、吾人ノ頭上ニ現ハル、星辰、又吾人ヲシテ時々驚カ

レムル所ノ雷電地震等凡ソ宇宙間ノ現象ハ皆地理學ノ範圍ニ入ラサルモノアルコトナレシ、是レ近來教育者ノ實物課ノ教授ヲ此地理學ノ課程中ニ編入スル所以ナリ、又政治地理ト地文地理トハ共ニ相結合シテ之ヲ授クヘシト雖モ、小學校ニ於テハ地文地理ヲ主トシテ、之ニ交フルニ政治地理ヲ以テスルヲ良トス、何トナレハ地文地理ニ關スル知識ハ小學生徒ニ最モ必要ナレハナリ、政治地理トシテ授クヘキ事項ハ可成的無味無益ノ事ヲ避ケテ、有趣有益ノ事ヲ撰ヒ、歷史上若クハ生活上須要ノ事ト聯合シ、且ツ地形ノ國民ノ發達ニ及ホス影響等ヲ述フ可シ、從來ノ如ク地文地理ト政治地理トヲ各部別々ニシテ、最初ニ政治地理ナル地理學ノ一部分ヲ説キ、後ニ地文地理ヲ地文學トシテ説クコトハ眞







眼界線・天空・天頂・縱線・水平線・陸ノ地勢即チ丘陵・山谷・河流・池沼等ノ觀察及草木成長ノ理由、

第三學期

繪畫或ハ黑板上ノ地圖ヲ以テ、讀書說話中ノ事物ノ解説及鳥類轉地ノ説、

尋常小學校第三年級

第一學期

系すさゆ 民族史中ニ散見スル各地所在ノ解説、土質即チ細石砂・真土・岩石等ヲ觀察、通常金石ヲ觀察、寒熱・空氣・水・土及植物生活ノ各、相關係スル成績及地勢ノ寒熱・溫氣等ニ相關係スル所ヲ研究セシム、

第二學期

系すさゆ 民族史中ニ散見スル各地所在ノ解説、土質即チ細石砂・真土・岩石等ヲ觀察、通常金石ヲ觀察、寒熱・空氣・水・土及植物生活ノ各、相關係スル成績及地勢ノ寒熱・溫氣等ニ相關係スル所ヲ研究セシム、

光熱・水蒸氣及雲ノ雨ニ關係スル所、故ニ雨ノ草木生活ニ

關係スル所ヲ研究セシム、歴史中ニ散見スル各地ノ所在

ヲ解説セシム、

尋常小學校四年級

第一學期

水陸ノ形狀、丘陵・山脊・山脈及山岳ト山彙トノ説話、山谷・平野・低地・ふれり！すてつ・ぶせるはすりやのす等ノ説話、

第二學期

水流・水ノ地中へ浸入スルコト、土中ノ水ノ功用、植物ノ成長、泉源・谿流・河流・池水・湖水・沼澤・竝ニ山上ノ雪及氷河・氷山

ノ説話、井水・鑽井・運河・溝渠、

第三學期

第六章 (地理科)



河流・水域一切觀察ノ成績ヲ悉此水域ニ配セシム海岸線・高岬・低岬・半島・島嶼・海灣等ノ類・増長ノ海岸・減損ノ海岸・潮水及生徒ノ未タ嘗テ見サル形體ノ說話

第一學期 第二學期

北亞米利加ノ地形全力ヲ地形ノ研究ニ用フルノ外水流・水域・土質ノ美惡・氣候・植物・動物・人類・政門區別ノ大勢・斜坡・山・斜坡トシ比較及水域ト水域トノ比較

第三學期 四年級

南亞米利加ノ地形但前書水流・河流・水域・土質ノ美惡・氣候・植物・動物・人類・政門區別ノ大勢及南亞米利加ノ比較高等小學科三年級

第一學期

亞細亞ノ地形・亞細亞ノ地形・歐羅巴ト亞細亞トノ比較・歐羅巴ト北亞米利加トノ比較・歐羅巴及亞細亞ト南亞米利加トノ比較

第二學期

亞弗利加ノ地形・既ニ習ヘル各大陸ノ比較・濠洲ノ地形及各大陸ノ地形ノ比較

第三學期

地球ノ形狀・地球儀ヲ以テ各大陸ノ所在ヲ問フ・大洋島・大陸島ノ所在・五大洋ノ所在・大洋ト大陸トノ關係及洋流・高等小學科三年級

第一學期

第六章 (地理科)



熱ノ分布、地球ノ運動、熱ノ分布ハ五帶各地ノ高低、風向、洋流ニ從ヒテ異同アルコト、濕氣ノ分布及風、

第二學期

土壤ノ分布、植物ノ分布、動物ノ分布、

第三學期

人ノ分布、人種、礦物、金類ノ分布、

高等小學校四年級

第一學期

政府及其情況、政體、族長統治、君主專制、主憲政體、共和政治、

天下各國ノ分布及首府、大都、

第二學期

各國各地ノ形狀、土質、氣候、草木ノ產物、工業、商業ノ便否、天

下各國ノ製造品、天下各國ノ商業、天下各國ノ大都及其大都ノ事ヲ以テ、

第三學期

諸國ノ地形、古今ノ史上ニ緊要ナル諸國、波斯國、叙利國、

當れす、トルコ、埃及、希臘、以太利、西班牙、佛蘭西、大英、日耳曼、和

蘭、合衆國、

小學校ニ於テ地理學ヲ教授スル所以、

ノ須要ニ應スルコト、外、尙ホ更ニ大ニテ目的ヲ其テ存スルナ

リ、即チ兒童ヲシテ我國ナル觀念ヲ感起セシムルコト、即チ

是ナリ、抑、我國ナル觀念ハ我國ノ地理ヲ講シテ、國土ノ形勢、

氣候ノ寒溫、物産ノ多寡及人民ノ氣質、生業、貧富、強弱等ヲ詳

ニシテ、始テ發起スベキナリ、又能シテ我國ノ形勢ヲ知ラント



欲セハ則チ又能ク宇内萬國ノ形勢ヲ知ラザルヘカラス、是  
 所謂ル人ヲ知リテ後始テ眞ニ我ヲ知ルコトヲ得ルモノ  
 ナレハ、兒童ヲシテ先ツ我國ヲ知ラシメ、次ニ世界ヲ知ラシ  
 ム、然ル後世界ニ於テ我國ノ位置ヲ知ラシムヘシ、能ク斯  
 ノ如クニシテ我國ノ觀念始テ兒童ノ腦裏ニ其印象ヲ確カ  
 ヲキテ、若シ夫然ラザレバ、眞正ナル愛國心ハ決シテ起ル  
 ヘキヤ、  
 當時ノ人士カ内外ノ形勢ヲ通西遊東、尙慨歎スルハ、  
 蓋シ當時ノ人士安シテ今日ノ小學校ニ於テ用テ、  
 ノ地理書ニ讀モ一讀シタランニハ、決シテ斯ノ如キ蹉跌ノ  
 事アラザラシナラン、  
 地理學中、政治地理ハ歴史ニ甚ク相關係ス、夫故以テ、人曉ハ

其區別シ難キヲ疑フモノアリ、依テ左ニ其區別ヲ述ベシ、萬  
 物ノ進歩發達ヲ跡シテ先ツ其進歩發達ノ所以ヲ理キ、若  
 究シ、次ニ萬物ノ理ヲ抽出シテ之ヲ社會ニ應用シ、人間社會  
 進化ノ理ヲ研究スルモノ之ヲ稱シテ社會學ト云ヒ、人文ノ  
 發育進歩ノ模樣ヲ記述シ、其變遷進化ノ實際ノ狀況ト、各事  
 件ノ相關係スル所ヲ記載スルモノ之ヲ歴史ト云ヒ、或一  
 二於テハ國民ノ發達ト文化ノ程度トヲ記載スルモノ之ヲ  
 政治地理ト云フ、然ラハ則チ吾人ノ便宜ヲ爲シ、若シ歴史ヲ  
 幾多ノ薄層ヨリ成ラシメテ、其各層ハ皆能ク剝離シ得ルモ  
 ノトスレハ、其最新ノ一薄層ヲ更ニ精密ニ記述スルモノ是  
 レ即チ政治地理ナリ、社會學ハ抽象的ニ社會進化ノ理ヲ説  
 キタルモノニシテ、歴史ハ之ニ與テ實例ヲ以テシタル



モノナリ、而シテ其歴史中最新ノ一部ニ就キ更ニ詳論シタルモノ之ヲ政治地理ト云フ、故ニ之ヲ換言スレハ國民ノ發達ヲ縱ニ記載シタルモノハ歴史ニシテ、横ニ記載シタルモノハ即チ政治地理ナリ、小學校ニ於テハ、通常地理學ニ經濟學ヲ交ヘテ其一斑ヲ窺ハシムルヲ良トス、何トナレハ經濟學ハ人生必須ノ學問ナレトモ、獨立ノ一科トシテ之ヲ授クルハ餘地ナク、又地理學ハ人民ノ生業、物産、商業及交通、運輸等ノ事ヲ教授スルヲ以テ、經濟學トノ關係最モ大ナルハナリ、故ニ一カ地圖ヲ揭テ之ヲ教授スヘキハ勿論、又必ズ生徒ヲ以テ其地圖ヲ描カシメサルヘカラス、其進シテ地球圖ヲ描クニ至レハ、

經緯線ヲ以テ地圖ニ基礎トシ、此線ハ元來想像上ニ成ルモノカレトモ、此設ケナキハ我地球ノ全形ヲ容易ニ示ス可ト能ハサルナリ、經緯線ヲ描クニ地球ヲ正圓體トナスコトアリ、又圓體トナスコトアリ、而シテ圓體トナストキハ地心ヲ貫ケル縱橫線ノ長サ各相同シカラサルヲ以テ、之ヲ描クコト正圓體ヨリ易カラサレハ、先ツ正圓體トシテ之ヲ描クヲ通常トス、此想像線即チ經緯度ヲ描キテ地球ノ全形、若クハ地球上某ノ部分ノ形狀ヲ畫クハ、總テ視形圖法ノ理ニ基クヘシ、然レトモ小學生徒ニ向テ獨力ヲ以テ經緯度ヲ劃シ、且ツ各國ノ海岸線、山脈、河湖等ヲ適當ノ割合ニ描カシメントスルハ甚々難事ナレハ、防間ニ於テ發賣セル輪廓圖ヲ購求シテ之ニ海洋、港灣、山脈、河湖、國道、鐵道、







(1) 太陽ノ出ル方ヲ見タルコトアリヤ、其出ルハ何處ナリヤ、  
一生ヲシテ之ヲ答ヘシメ次ニ二三生ニ及フ、

太陽ノ没スル方ヲ見タルコトアリヤ、其没スルハ何處ナル  
ヤ、

太陽ノ出ル方ヲ何ト呼フヤ、知ラサレハ教フ)

(2) 太陽ノ没スル方ハ如何、  
西東練習、

(3) 文字ヲ練習ス  
東ナル字ヲ知レルモ、西ナル字ヲ知レルモ、  
西ナル字ヲ知レルモ、東ナル字ヲ知レルモ、  
他生ヲシテ再々文字ヲ書カシム、

(4) 練習  
教師東方ニ歩キ、問フ、余ハ何レノ方ニ向ヒテ歩セシヤ、

(5) 生徒ハ如何、  
東或ハ西ニ向ヒテ歩セシヤ、

(6) 結論  
教師曰、然レモ東トハ如何、  
生徒曰、西ト云フヤ、生徒曰ク、太陽ノ出ル方ヲ東ト云ヒ、入ル  
方差西ト云フヤ、

題目 教室ノ境界

(1) 復習  
汝等來學ニ由リ、汝等來學ニ由リ、

汝等來學ニ由リ、汝等來學ニ由リ、

汝等來學ニ由リ、汝等來學ニ由リ、

汝等來學ニ由リ、汝等來學ニ由リ、

汝等來學ニ由リ、汝等來學ニ由リ、







ニ示スヘシ、斯ノ如クニ教授シ終ルトキハ更ニ其大要ヲ問  
答シ、口授ナレハ其要旨ヲ筆記セシメ書冊ニ依ル主キハ之  
ヲ講讀セシムル事ヲ如クニシテ尙ホ時間ノ餘裕アリハ  
既ニ教授シタル事ヲ就キ之ヲ敷衍シテ種々至談話問答等  
ヲ加テヘシ其口授ニ依リテ之ヲ筆記セシメ爾トキハ直ニ  
教師ノ言詞ヲ筆記セシメテ各自ニ推考シ其主意ヲ記サ  
シテ課業後ニ於テ之ヲ檢閲スヘシ、

東南第七章 歴史科

此世差中初ヨリ漸次ニ進ミテ終ニ此文化ノ世界ニ達シタル  
者ナリ數千年ノ月日ヲ重テテ幾多ノ變遷ヲ經過セシメ幾  
多ノ艱難ヲ遭遇セシメ大議ニ計テ易カラス、然レトモ世ノ中

ノ進ミ行ク有様ハ決シテ偶然ノモノニアラス、皆當然ノ理  
由アリテ起ルヘキ時ニ變化起リ、生ス可キ處ニ事物生ス、凡  
ソ前ノ事物原因トナリテ後ノ事物ヲ生シ、後ノ事物又原因  
トナリテ更ニ其後ノ事物ヲ生ス、カク原因結果相續キ、事物  
ノ數次第ニ増加シ數千百年絶ユルコトナシ、之ヲ文化ノ進  
歩ト云フ、吾人此文化ノ世ニ生レテカク其原因ヲ知ラスシ  
テ可ナラシヤ、歴史ハ昔ニ溯リテ其原因ヲ原ヌルモノナレ  
ハ、教授ノ際此主旨ヲ失ハサル様注意セサルハカラス、  
吾人此世ニ生レテ坐ナカラ千百年ノ古ニ溯リ、世毎ニ移リ  
換リタル風俗人情ヲ觀察シテ許多ノ知識ヲ補ヒ、又太平無  
事ノ時ニ當リテハ文學技術ノ駸々トシテ進歩モシテ見テ  
大ニ樂ミ、衰亂ノ時ニ方リテハ同胞相屠リ悲惨ノ狀況ニ陷



リ、倫理壞レテ文物亡ヒントスル勢ニ臨ミテ深ク心ヲ痛マ  
 シ、又賢愚忠邪ノ言行ヲ記セルモノヲ視テハ吾人ノ感情  
 ヲ動カスモノ即チ歴史科ナリ、然レトモ此ノ如クニシテ已  
 ム者ハ歴史ヲ教フルノ主意ニ非ス、其歴史ヲ教フルノ主意  
 ハ、既往ノ事物ヲ穿鑿シテ、文化進歩ノ有様ヲ察シ其原因ヲ  
 原チシムルニ在ルナリ、  
 歴史ヲ授クルニハ、世態ノ變遷ヲ察スルニ眼ヲ内外兩部ニ  
 注カシムルヲ必要トス、外部ノ變遷トハ事物進歩ノヨトニ  
 シテ、例ヘハ吾人ノ祖先ハ如何ナル家屋ニ住ミ、如何ナル物  
 ヲ飲食シ、如何ナル衣服ヲ着ケ、如何ナル物ヲ弄ヒ、如何ナル  
 器械ヲ用ヒ、如何ナル職業ヲ務メ、如何ナル生活ヲナシ、又幾  
 何ノ富ヲ保チシカ、一千年前ハ如何、五百年前ハ如何、二百年

前ハ如何ト、其事物ノ有様ヲ察スルカ如キ是ナリ、内部ノ變  
 遷トハ思想進歩ノヨトニシテ、例ヘハ吾人ノ祖先ハ如何ナル  
 事ヲ考ヘ、如何ナル事ヲ好ミ、如何ナル事ヲ信仰シ、如何ナル  
 物ヲ恐レ、如何ナル時ニ樂ミ、又智識ハ如何、想像ハ如何、道  
 徳ハ如何ト、其時代ヲ追ウテ詳ク其心情ヲ忖度スルカ如キ  
 是ナリ、此ノ如ク眼ヲ内外兩部ニ注キテ、世態變遷ノ狀ヲ視  
 察シ、理ヲ推シテ原因結果ノ繋續ヲ探求セハ、今日文化ノ由  
 リテ起レル所以ハ大略之ヲ了解シ得ヘシ、  
 歴史ヲ區別スレハ其種類多シ、其一ハ古今英雄豪傑ノ言行  
 高僧碩學ノ事蹟、君子小人ノ出處榮辱等ヲ記スルモノ、其二  
 ハ社會ノ事變ニシテ内ニハ皇室ノ盛衰、變革、内訌、騷亂ノ有  
 様、外ニハ講和宣戰ノ大事等ヲ記スルモノ、其三ハ政治ノ沿



革命記スルモノ、其四ハ宗教ノ隆替ヲ記スルモノ、其五ハ學校ノ興廢著書ノ種類及其盛衰ノ状ヲ記スルモノ、其六ハ建築彫刻圖畫等凡テ技術ニ關スルコトヲ記スルモノ、其七ハ農業商業ノ沿革ヲ記スルモノ、是レ皆歴史ニ稱スベシト雖モ各文化ノ一部分ニ止マルノミニシテ、文化進歩ノ全體ヲ知ルニ由テシ、是等百般ノ事物ヲ一書中ニ網羅シテ、其大略ヲ知ラシムルモノ之ヲ國民ノ歴史ト云フ、  
 歴史ノ性質ニ於テ、歴史家カ其時代ニ起ル事物ヲ見聞以儘直ニ記載シタルモノ後世ヨリ前代ニ溯リテ記載シタルモノトテテ、前者ハ讀ムモ以テ眼ニ之ヲ視、耳ニ之ヲ聽クカ如ク感ズセシメテ、年代月日ヲ誤謬少ナク雖、總ニ一代ノ記事ニ止リテ前後ニ繋續ヲ知ラズ由テ、其ツ其

記事ニ一方ヲ詳ニ以テ一方ヲ略シ、或ハ彼此ニ褒貶公ナラザルモノ以テテ、讀者ヲ誤ラシムル少キラス、後者ハ此弊ナシト雖モ千百年ノ昔ニ溯リ、已ニ朽チ果テタル物ニ有様ヲ寫シ、殆ト消亡失セタル事ヲ始末ヲ記シ、或ハ己ニ死セタル人ノ言語行爲ヲ記スルカ故ニ能ク其眞ヲ寫シテ讀者ノ情感ヲ動かサシムルコト難シトス、抑、小學校ノ歴史ハ今日ヨリ千百年ノ古ニ溯リテ、文化進歩ニ有様ヲ其原因結果ヲ繋續トシ知ラシムルニテ、一々人ノ情感ヲ動かサスヲ以テ必要ナラズ、要スルニ尊主愛國ノ心情ヲ感發シテ、兒童ノ裨益ヲ得ルニ則チ以テ足ラズ、  
 尋常小學校ニ於テ、歴史教授ノ順序ハ、郷土史談即チ兒童生活ノ郷土ニ關スル史談ヨリ始メ、總ニ地理ノ關係シツ



主之ヲ教授シ、次ニ本邦歴史ノ大要ヲ教授スヘシ、但尋常小學校ニ於テハ其兒童ノ幼少ナルヲ以テ、其事實ノ原因結果ヲ稽ヘ首尾貫聯シテ教授スルコト能ハス、主トシテ人物ノ史談ヲ以テ國初ヨリ現時ニ至ルマテ事實ノ大要ヲ知ラシメ、ハルハ足レリトス、ハルハハ人ノ習熟ヲ極メ、以テ必要高等小學校ニ於ケル歴史教授ノ順序ハ其始ニ二學年間ハ前述ノ順序ニヨリテ稍詳ニ之ヲ授ケ、其學校ノ修業年限ニ應ジ後ノ一學年若クハ二學年間ニテ、略々事實ノ原因結果ニヨリ首尾貫聯シテ簡易ナル文明史體トナシ、再々國初ヨリ現時ニ至ルマテ之ノ事實ノ大要ヲ教授スヘシ、蓋シ高等小學校ニ於テハ前二學年其後一學年若クハ二學年間ニテ、二回繰返シテ本邦歴史ヲ教授スルヲ以テ、唯事實ヲ詳略ノミ

ニテハ兒童ノ厭倦ヲ免ルニ是故前出人物ヲ生テシテ之ヲ説キ、後ニハ事實ヲ主トシテ之ヲ説キ、順序ヲ變換シテ趣味ヲ深カラシムルハ當ナ得タルモノト云フヘシ、又本科野修身科トニ於テハ、戒ルヘク通商開地製造ニ關シテ功名ヲ立テタル人々ノ事ヲ談話スルニ、從來我國ニテハ兒童ノ功名心ヲ誘起シ、成年立志ノ方向ヲ定ムルニキ談話多クハ、殺伐無謀ナル暗殺ニアラザルハ、則チ君侯馬前ノ討死等ニシテ、着實ナル學者、醫師、農工、商ノ功績名聲ハ甚々少シ、況シヤ海外ニ渡リテ通商ヲ營ヒ、若クハ地ヲ拓キ山ヲ開キ不盡ノ利源ヲ發見シテ、産ヲ起シ名ヲ博シタル事績ハ如キハ、嘗テ耳ニスルコトヲ得サリシ、是レ吾人カ此開明ノ世ニ生レテカカテ碌々成ス所ナキ所以ナリ、故ニ通商開地製造



ニ關シテ功名ヲ立テタル人ノ事績ハ、務テ之ヲ談話スルヲ要ス、  
 本科教授ノ方法ハ口授若クハ書籍ニ依ルヘシト雖モ、今日教育家ノ輿論ニハ本科ノ如キハ殊ニ教科書ニ依ルヲ以テ至當トス、教科書ニ依リテ授クルトキハ、先ツ其授ケントスル事實ヲ問答體ニ談話シ、然後書籍ヲ出タシテ之ヲ讀講セシメ、最後ニ至リテ當日課業ノ大體ヲ問答練習スヘシ、但シ教授中ハ可成的種々ノ標品、繪畫、地圖等ヲ示スヲ要ス、若シ又地理科ニ於テ沿革圖ヲ授ケサルニキレバ、必ズ本科ニ於テ之ヲ教授ス可シ、

第八章 理科

理科ハ其範圍極メテ廣大ニシテ、物理、化學、動物、植物、礦物、生

理衛生等ニ關スル事項ヲ悉ク包含ス、然レトモ此等ノ諸目ニ分類シテ教授セシトスレバ、自然學問上ノ順序ニ依ラサルヘカラス、從テ僅少ノ時間ニ於テ之ヲ授クルコト甚タ難キノミナラス、元來天然物ノ存在ハ、共同ニ成立ニシテ、自然ノ現象ハ交互事物ノ間ニ起リ、因果ノ變化ヲ其間ニナスモノナレハ、小學校ニ於テ理科ヲ授タルニハ、常ニ自然物共同ノ生活狀態ヲ知ラシメシコトニ注意セサルヘカラス、故ニ小學校ノ理科ハ、以上ノ諸目ニ分類シテ教授スヘキモノニアラス、只通常ノ天然物及現象ノ觀察ヲ精密ニシ、其相互及人生ニ對スル關係ノ大要ヲ理會セシメ、兼テ天然物ヲ愛スルノ心ヲ養フヲ以テ其目的トスヘキナリ、

理科ハ其範圍極メテ廣大ニシテ、其材料モ亦從テ夥多ナル



カ故、動モスレハ其教授スル所、亂雜ニ流レ易ク、且ツ材料ヲ以テ教案ヲ堆積スルノ恐アリ、故ニ材料ヲ撰擇スルニハ、一定ノ要件、即チ理科教授ノ目的ヲ達スルニ適當ナル要件ヲ定メ、縱令趣味アルモノト雖モ、此ノ要件ニ適セサルトキハ、之ヲ放棄セサヘカラス、今其要件ノ主ナルモノヲ舉クレバ、

第一、極メテ普通ナル殊ニ學校所在地ニ於テ普通ニ存在セサル天然物及自然ノ現象タルヘキコト、ニ自然科學ノ第二、相互ノ關係及人生ニ對スル實用等ヲ最も容易ク理解セシメ、從テ天然物ヲ愛スル心ヲ養フニ適スルモノヲ選ズルヘキコト、ニ知識ニ欲メシキコト、ニ其知識ヲ深ルヘキコト、ニ其知識ヲ活用スルコト、ニ其知識ヲ其知識ニ對シテ他ノ教科目殊ニ地理科ヲ教授等ニ必要ナル關係ヲ與フルモノタルヘキコト、悉ク適合スルモノヲ其教科目

等ニリトス、更ニ其教科目ニ對シテ、且ツ前已ニ述ヘタル如ク、理科中ニ物理、化學、動物、植物、礦物、生理、衛生等諸種ノ目アルヘシト雖モ、此等ノ諸目ニ分類シテ教授スルハ至當ノ科トシテアラス、然レトモ此等ノ諸目ニ關スル事項ヲ悉ク同時ニ教授スルハ、甚ク困難ニシテ、又之ヲ爲スノ必要ナカルヘシ、故ニ只主ナル天然物及自然現象中、最も必要ニシテ而モ互ニ關係スルハ親密ナルモノヲ、同時ニ教授スレハ可ナリ、詳言セバ其繁簡難易ノ度ヲ斟酌シ、順テ逐ヒ序ヲ履ムノミナラス、季節ノ適否等ヲモ顧ミテ其時々教授スヘキ主ナル材料ヲ撰擇シ、其之ヲ教授スルノ際ト雖モ、必要ニシテ而モ之ト親密ナル關係ヲ有シ、且ツ兒童ニモ明カニ理會シ得ヘキモノハ、悉ク同時ニ教授スヘキ



ナリ、又地理料ハ其範圍極メテ廣大ニシテ、理科ヲ學ブノ基礎ヲ  
 興ヘ得ヘキモノナレハ、少クモ尋常小學校ノ兒童ニ教授ス  
 ヘキ理科ノ材料ハ、自ラ此中ニ備具セリ、是レ小學校令中ニ  
 「モ尋常小學校ノ教科自中ニ理科ヲ加ヘザル所以ナランカ  
 故ニ爰ニハ高等小學校ニ於ケル教授材料ノ順序ヲミテ述  
 フ」云々、又「理科ニ於テハ、最初ハ主トシテ學校所在ノ地方ニ於  
 テル天然物及自然ノ現象ニ就キテ、兒童ノ自擊ヲ得ル事  
 實ヲ授ケ、就中重要ナル動植物ノ形骸構造及生活發育ノ狀  
 態ヲ觀察モシテ、其大要ヲ理會モシ、又學校ノ修業年限  
 長キトキハ、更ニ動植物ノ相互及人生ニ對スル關係通常ノ

理化學上ノ現象、通常兒童ノ目擊ヲ得ル器械ヲ構造作用等  
 ナ理會セシメ兼テ、其大要ノ生理及衛生ノ大要ヲ授クヘシ、  
 又理科ニ於テハ、務メテ農業・工業其他人民ノ生活上ニ適切  
 ナル事項ヲ授ケ、殊ニ動植物等ヲ授ケル際、之ヲ以テ製スル  
 重要ナル人工物ノ製法効用等ノ概略ヲ知ラシムルコト甚  
 タ必要ナリトス、

理科教授ノ方法ハ、其材料ニヨリ幾分カ斟酌セサルヘカ、  
 スト雖モ、一般ノ方法ハ大略左ノ如クテ、其大要ヲ要ス、

第一、簡單ナル序言又ハ問答ニヨリ、將ニ授ケントスル  
 事項ニ對スル興味ヲ喚起シ、兒童ヲメテ、更ニ進シテ其  
 天然物及現象ヲ講究セントスルノ念ヲ起サシムヘシ、  
 例、例ハ主トシテ動植物ニ關スル事項ヲ授クル場合ニ



ハ、他ノ教科目又ハ日常生活ノ關係ニヨリテ知得シタル、其事物ノ人類ニ對スル關係及實用等ノ大要ヲ問答シ、或ハ動物ノ如キハ、其名稱ヲ指示スル如キ、又理化學以上ノ事項ヲ授クル場合ニハ、兒童ノ日常經驗觀察セルニイ現象ヲ追想セシメ、或ハ其現象ヲ現出シテ反覆觀察セシメ、或ハ器械ヲ使用シ、試験ヲ施シテ觀察ヲ助クル如ク、心算皆是ナリ、

第三、以上ノ豫備已ニ了リテ、始メ、其眞ノ教授ニ移ルニシテ、例ヘハ、動物植物等ノ一物體ヲ指シテ之ヲ觀察セシメ、其全體及主要ナル部分等ヲ開發説明シ、兒童モ、自己ニ有スル觀念ハ之ヲ明瞭確實ニシ、遺失之ヲ正シ、或ハ、缺漏ヲ以テ之ヲ補ヒ、以テ其經驗ヲ觀察ヲ新鮮ニ

又、其、校正シ、且ツ完全ナル知識ニ至ラシメ、其進歩ニシテ、生物ノ各機關ヲ詳ニ推究セシメ、兼テ、他ノ生物及、人類ノ生ニ對スル關係ヲ知得セシメ、サレバ、又、理科學上ノ事項ナレバ、其現象ノ原因結果ヲ推究セシメ、其理法ヲ發見セシメ、如何ナル情狀カ如何ナル影響ヲ現象及、スカ、情狀變スルハ、現象ハ如何ニ變スルカ等ヲ、其理會セシメ、兼テ、之ニ關係セル事項及、利用厚生ノ道ヲ知得セシメ、サレバ、カラス、

第三、以上ノ手續已ニ了リテ、之ヲ各般ノ場合ニ應用セシメ、一層詳細ニ相互ノ關係及、人生ニ對スル實用等ヲ知ラシメ、サレバ、カラス、即チ、動物植物ニ關スル事項ナレハ、或ハ、或生物ノ特性ニヨリテ、他ノ生物ヲ類推セシ



レ、或ハ變種ノモノヲ見出サシメ、或ハ已ニ見出シタル  
 理法ヲ他ノ生物ニ適用セシムルカ如キ、理化學上ノ事  
 項ナレハ、或ハ各種ノ境遇ヲ假定シテ益深ク推究セシ  
 ヲ、且ツ試験ニヨリテ之ヲ證明セシメ、或ハ實際ノ生活  
 上遭遇スル各般ノ事項ニ適用セシムル如キ是ナリ、  
 第四以上述フル所ニヨリ、教授ノ要部已ニ終リタレトモ  
 最後ニハ更ニ全體ヲ復習シナカク要領ヲ筆記セシメ、  
 或ハ教科書ノ講讀ヲサシムルコト必要ナリトス、  
 要スルニ理科ハ常ニ觀察ニ後レテ教授ニ入り、説明ニ先キ  
 テ豫備ヲ全カラシメ、且ツ應用ヲ理會セシムタル後ニテハ  
 スンハ一事項ノ教授完結セリト云フヘカラス、  
 又理科ヲ授クルニハ、可成的實地ノ觀察ニ基キ、現在存立ノ

實物ヲ示シ、標本模型如キハ、已ニ得ル場合ニテハ使  
 用スヘキモノトス、  
 第九章 圖畫科  
 圖畫ハ兒童ノ智力ヲ啓發シ、手臂ノ運用ヲ自在ニシ、兼テ  
 意匠ヲ練リ、風致ヲ研キ、又能ク言語ノ及ハサル所ヲ表出シ  
 テ一見釋然タラシム、故ニ其教授ハ美術ノ思想ヲ養ヒ、工藝  
 ノ基礎ヲ作り、諸教科目ノ研究ニ資益スルヲ以テ目的トス、  
 抑、天然諸物ハ美術ノ根元ニシテ、圖畫ハ其諸物ヲ寫シ、且ツ  
 人ノ想像力ヲ以テ造化ノ妙工ヲ奪フモノナレハ、之ヲ教フ  
 ルニハ單ニ臨本ニ由ラスシテ、可成的實物若クハ模型ヲ以  
 テシ、終ニハ種々ノ實景ヲ工夫結合シテ天真絕妙ノ圖畫ヲ  
 寫シ出サシムルニ至ルヘシ、



日本畫ト西洋畫トノ利害得失ヲ論究スルハ本書ノ目的ニアラサレトモ、聊カ之ヲ辨スヘシ、日本人ハ日常毛筆ヲ用ヒテ文字ヲ書スルヲ以テ、毛筆ノ使用ニ慣ル、ノミナラス、又種々ノ毛筆畫ヲ目撃シテ幾分カ其思想ノ存スルモノアリ、且ツ日本ノ風景ハ一種特色ノアル事ナレハ、其畫風モ一種特色ノ發達ヲ爲シタルナラン、故ニ其孰レヲ撰フト云フトキニ至リテハ、寧ロ日本畫ニ賛成ヲ表セサルコトヲ得ス、今日輸出品トシテ日本畫ノ愛重セラル、所以モ、單ニ其巧妙ナルニアラスシテ寧ロ西洋畫ニ比シ、一種特色ノアルアリテ歐米人ノ好奇心ニ投スルコトアルニ由ルナリ、其特色トハ西洋畫ノ如ク理學的ニ偏セスシテ、反テ天真ニ接近シ、加之理想的ニ出テ人間世界ヲ離レタ所謂仙境ノ趣也

アルコト是ナリ、又日本畫ハ單ニ臨本ノキニ由ラ其寫生ヲナスカ故ニ、自ラ死畫ヲスルニ不熟シ實活畫ヲ寫ムルハ益アリ、又、落干、三武派、四武派、圓筆、淋乳、落干、小學校ニ於テ西洋畫ヲ教授スルニハ、鉛筆ト西洋紙ト字消シ、でひ等ニ過ギスト雖モ、日本畫ハ木炭、毛筆、羽筆等々引キ、紙筆洗ヒ、硯石等ヲ要ス、然レトモ筆洗ヒハ一教室ニ一ニ個ヲ備ヘ、硯石ハ習字ノモノヲ兼用シ、木炭ハ軟質ノ鉛筆ニテ代用スルトキハ、費用上彼是相異ナルコトナカルヘシ、尤モ西洋畫ニ比シテ幾分ノ煩累アルハ免レサル所トス、圖畫ノ初歩ニ於テハ猶ホ習字ノ最初ニ於ケルカ如ク、線ノ引キ方及其等分ノ法ヲ演習セシムルヲ要ス、然レトモ日本畫ヲ教フル場合ニ石筆及鉛筆ヲ用フルコト久シケレハ手



ノ運用硬クナリテ、毛筆ヲ用フルトキ其運用自在ナルコト能ハサルモノナレハ、鉛筆ヲ用ヒテ線ノ引キ方諸物ノ輪廓ヲ習ハシムルハ眞ニ其最初ノ時ノミニ限ルヘシ、  
 圖畫ノ種類ニ工夫畫・臨畫・寫生・器械畫等ノ別アリ、工夫畫ハ圖畫教授ノ最初ヨリ終リマテ時々之ヲ交ヘ課スベキモノナリ、圖畫教授ノ最初ニ當リテハ諸線及諸形ヲ畫カシムルヲ以テ例トスレトモ、徒ニ諸線及諸形ヲ畫カシムルノミニテハ生徒ハ其趣味ヲ覺ユルコトナク、又心智ヲ啓發スルコト少ナカルヘシ、故ニ最初ヨリ工夫畫ニ依リ銅鐵線ノ長短曲直ナルモノ若干ト、三角形・四角形・圓形等ノ板片若干トヲ與ヘテ、隨意ニ諸形ヲ工夫シ之ヲ石盤ニ畫カシメテ復タ之ヲ紙上ニ畫カシムル、此ノ如クスルトキハ、大ニ其趣味ヲ

覺ヘ、知ラス識ヌス圖畫ノ基本タル諸線及諸形ヲ自在ニ畫クコトヲ練修シ、且ツ工夫發明ノ諸能力ヲ啓發スルコトヲ得ヘシ、  
 高學年生ニハ種々ナル高妙ノ紋畫ヲ畫カシメ、又時々顏料ヲ用ヒテ之ヲ彩色スルニ至ラシムヘシ、凡ソ工夫畫ニ結合法及分解法ノ二種アリ、諸線又ハ諸形ヲ結合シテ一新形ヲ工夫スルモノ之ヲ結合ト云ヒ、諸形ノ各邊ヲ等分シテ其等分ニ基キ新ニ諸形ヲ工夫スルモノ之ヲ分解法ト云フ、  
 臨畫ハ其最初ハ教師自ラ黑板ニ其形ヲ畫キ示シテ生徒ニ之ヲ模寫セシメ、稍熟スルノ後臨本ニ由リテ學ハシムヘシ、畢竟此種ノ圖畫ハ風致ノ心ヲ研キ視察ノ力ヲ敏ニシ綿密ノ性ヲ養フニ足ルモノナリ、



寫生ハ低學年ノ生徒ヨリ之ヲ課スヘキモノニシテ、其最初ハ諸形體(木製、ブリツキ製、陶製、粘土製)ノ模型ヲ示シテ之ヲ畫カシメ、其進ムニ從ヒテ日常ノ物品竝ニ動植物ノ實物ニ移リ、終ニ實地ノ山水人物等ヲ描寫セシムヘシ、此種ノ圖畫ハ觀察、比較、模倣等ノ能力ヲ練習シテ、地理、博物等諸科ノ研究ニ益スルコト少カラズ、特ニ其大ニ進ムニ及ヒテハ、理想上ヨリ既ニ觀察シタル實物實景ヲ工夫結合シテ、絶妙ノ圖畫ヲ畫キ得ルニ至ルヘシ、至ルヘシハ、凡ソ工夫畫ニ結合器械畫中ヲ幾何畫法ハ、工藝ニ資益アルモノニシテ、諸種ノ器械ヲ用ヒテ諸種ノ圖畫ヲ畫クコトヲ得シムルナリ、投影畫ト透視畫トハ、光線ノ陰影及遠近ト注視者ノ場處ニ依リテ、物ノ大小及形狀ヲ異ニスルコトヲ知ラシムルモ、

ナリ、但シ小學校ニ於テハ、此一種ヲ一教科目トシテ授クルノ必要ヲ見サレハ、臨畫若クハ寫生ヲ授クルノ際、常に注意シテ之カ理由ト畫法ト實地ニ了解セシムルヲ以テ足レリトス、  
 日々生徒ニ課スル所ノ種類ハ諸種相交換スルヲ可トス、能ク此ノ如クスルトキハ、皆ニ各種相資シ相益スルノ利アルノミナラス、又生徒ヲシテ日課ヲ厭フノ念ヲ絶タシムルノ便アリ、但シ幾何畫法ハ最後ニ之ヲ課スルヲ可トス、  
 教授ニ先ダテテ注意スヘキノ第一ハ、石盤及紙ノ位置ヲ正シクスルコト、第二ハ鉛筆石筆若クハ毛筆ノ持方及運用法ヲ教授スルコト、第三ハ手臂及身體ノ姿勢ヲ練習スルコト是ナリ、而シテ其教授法ニ移ルヤ、工夫畫ニ於テハ教師先ツ



生徒ニ命シ其用具ヲ整頓セシメ、然ル後描寫ノ位置ニ就カシムヘシ、生徒ノ描寫終リタルトキハ教師ハ之ヲ閱シテ、其善良ナルモノ一ニハ黑板ニ寫シ、之ニ關シテ種々批評セシムヘシ、是レ一ニハ他生ノ獎勵トナリ、一ニハ新ナル觀察ヲ生シテ風致ノ心ヲ研クノ益アルヲ以テナリ、停業ノ時ニ至リテハ二三ノ生徒ニ托シ、各生徒ノ畫紙ヲ集メテ教師ノ机上ニ置カシメ、教師ハ之ヲ添削批評シテ次日復ダ生徒ニ返附スヘシ、

臨畫及寫生ハ生徒ノ描寫中、絶エス生徒ノ机間ヲ巡視シテ、其方法ヲ指示シ其弊癖ヲ矯正スヘシ、停業ノ時ハ工夫畫ノトキニ於ケルト大差アルコトナシ、

器械畫ハ先ツ其用具ノ名稱ト其使用法トヲ教授シ、然ル後

之ヲ畫カシムヘシ、幾何畫ハ教師ノ黑板ニ畫示スルヲ生徒ニ注視セシメ、次ニ質問ニ依リテ其理由ヲ發明セシメ、次ニ生徒ヲシテ之ヲ畫カシムヘシ、生徒ノ既ニ畫キタルトキハ又其畫キ方ヲ問答シ、次ニ黑板ヲ拭ヒテ畫紙ヲ教師ノ机上ニ出サシム、時宜ニ依リテハ石盤又ハ黑板ニ復畫若クハ聽畫セシムルコトアルヘシ、

投影及透視畫法ハ種々ノ模型ヲ示シテ、各其視ル所ヲ畫カシムヘシ、而シテ批評添削ノ法ハ前ニ異ナルコトナシ、

第十章 唱歌科

音樂唱歌ハ人心ノ反響ナリ、夫社會ノ人士ニ賢愚善惡ノ差別アルトキハ、歌曲モ亦自ラ善美鄙野ノ差ナキコト能ハス、而シテ人ノ音樂唱歌ヲ好ムハ其天性ニ出ツルモノナレハ、



蓋シ止メント欲シテ而シテ能ハサルモノナリ、故ニ其未ダ  
 正邪ノ嗜好ヲ生セサルノ時ニ當リ、早ク既ニ之ヲ導クニ正  
 道ヲ以テシ、知ラズ識ラスノ間ニ高雅優妙ノ歌曲ヲ嗜好ス  
 ルノ習慣ヲ養成セサルヘカラス、是レ小學校ニ於テ唱歌ヲ  
 教授スル所以ノ趣旨ナリ、  
 音樂唱歌ハ人性ノ自然ニ基キテ一々其心情ヲ感激セシム  
 ルモノナレハ、能ク善美ノ歌曲ヲ用ヒテ道德上至大至強ノ  
 鴻益ヲ爲サシムヘシ、夫喜悅ノ歌曲ハ以テ人心ヲ悅ハシメ  
 悲哀ノ歌曲ハ以テ人心ヲ哀マシムル等、一トシテ心情ノ感  
 動ヲ生セサルモノナシ、故ニ善美ノ歌ヲ唱ワルモ是キハ心自  
 ラ正シク、和樂ノ音ヲ聽クモ是キハ心自ラ和シク、心和キ意  
 正シキトキハ則チ邪惡ノ念外ニ入ルコト能ハス、而シテ

心ニ邪惡ノ念ヲキテ、小則チ自分善ヲ好シ、惡ヲ避ケルニ  
 至ルベシ、大則チ人ノ善ヲ好シ、惡ヲ避ケルニ至ルベシ、  
 音樂唱歌ハ嘗ニ一己人ノ樂ミニ供シ得ヘキヲミナラス、亦  
 衆ト共ニ之ヲ樂ムヲ得ルモノナリ、故ニ學校ニ於テハ之ヲ  
 小ニシテハ一組、之ヲ大ニシテハ一校ノ和樂ヲ得ヘク、學校  
 外ニ於テハ之ヲ小ニシテハ一家一郷、之ヲ大ニシテハ一國  
 一世ノ和樂ヲ得ヘシ、戰鬥ノ際唱歌ヲ以テ百萬ノ士氣ヲ鼓  
 舞シ以テ能ク大敵ヲ退ケタルコト其例蓋シ少シトセス、故  
 ニ西洋各國ニハ皆其國歌ナルモノアリテ能ク其人心ヲ鼓  
 舞獎勵ス、我國ニ於テハ未ダ確然定マリタルモノアラスト  
 雖モ「君が代」ノ歌詞ノ如キハ稍之カ資格ヲ有スルモノ、如  
 シ、



唱歌ノ効益ハ獨リ道德上ノミニ止ラスレテ、能ク呼吸機ト發聲機トノ發育ヲ助ケ聽覺ノ銳敏ヲ催スモノナリ、然レトモ齡十四五歳ノ聲音變更スル際ニ、唱歌ヲナストキハ、發聲機關ヲ損スルノ虞ナシトセス、故ニ此際ハ一時唱歌ヲ休業セシムルモ可ナリ、

米人、メイソン氏ハ教育家ニシテ深ク教授ノ方法ニ通セリ、予輩嘗テ同氏ニ就キテ唱歌ヲ學ヒシニ、同氏曰ク、人間ハ有情ノ動物ナレハ時々適應ノ快樂ヲカルヘカラス、特ニ小學教師ハ教授ノ餘暇ヲ以テ少シク音樂ヲ嗜ミ、高尚優美ノ快樂ヲナシテ心氣ヲ清爽活潑ナラシム、以テ平生ノ授業ニ一層ノ光澤ヲ添フヘキナリト、

本科教授ノ順序ハ尋常小學校自於テハ譜表ヲ用ヒス、主

テ口授唱歌即チ教師ノ唱フル所ニ模倣セシムヘシ、高等小學校ニ及ビテハ、音調ノ名ヲ教ヘ漸次譜表ニ移ルヲ可トス、既ニ譜表ヲ悟ルノ後ハ樂譜ノ記號ヲ唱ヘシメテ、音調ノ素地ヲ練習シ、然ル後始テ歌ヲ唱ヘシムヘシ、其法ハ教師黑板若クハ掛圖ノ前ニ立テ、教策ヲ以テ樂譜若クハ歌ノ文字ヲ指示シ、各生徒ニ交々之ヲ唱ヘシム、或ハ生徒ヲ黑板若クハ樂譜ノ前ニ出タシ、教策ヲ以テ樂譜若クハ歌ノ文字ヲ指シツ、之ヲ唱ヘシム、然ル後全學年或ハ該學年ヲ數部ニ分テテ交々齊唱セシムヘシ、但シ齊唱ノ際ハ樂器ヲ鳴ラシテ其模範ヲ示シツ、教師モ共ニ和唱スヘシ、

凡ソ生徒ノ唱歌スルトキハ、教師ハ耳ヲ傾ケテ各生徒ノ音調ニ注意シ、一々其誤謬ヲ正サ、ルヘカラス、蓋シ音樂唱歌







アリ、故ニ體操ハ直接ニ病痾ヲ醫スルノ術ニアラスト雖モ之ヲ未然ニ豫防スルノ良法ト謂ツヘシ、體操ハ身體ノ各部ニ於テ、平等均一ノ運動ヲ受ケシメツ、不良ノ念慮ヲ絶テテ、善良ノ氣質ヲ養成スヘキモノナリ、彼ノ徒ニ身體ヲ運動セシムレハ足レリトスルカ如キハ、其謬見モ亦甚タシト謂ツヘシ、普通體操ヲ分テテ輕體操及重體操ノ二トス、輕體操トハ整頓法・矯正術・徒手體操・啞鈴體操・球竿體操・棍棒體操・木環體操・豆囊體操等是ナリ、重體操トハ並行桿體操・並行繁桿體操・各種ノ繩網體操・跳躍板體操・驗力器體操・強腕器體操・張胸器體操・木馬體操等是ナリ、兵式體操ハ直接ニハ體育ニ資シ、間接ニハ人ノ氣質ヲ鍛鍊

シ、且ツ國民ニ兵役ノ一斑ヲ窺ハシムルノ益アリ、然レトモ尋常小學ノ生徒竝ニ女子ノ能ク堪フル所ニアラサレハ、男子ノ高等小學生徒ニ限リ之ヲ授クルヲ可トス、小學校ニ於テモ銃劍其他古代ノ武器ヲ備ヘ附ケテ、時々之ヲ生徒ニ示シ、且ツ其用法ヲ説明スヘシ、又時々運動會ヲ開キテ角力・旗奪ヒ等ヲナサシメ、或ハ修學旅行トシテ草鞋ヲ穿テ行厨ヲ携ヘ、以テ山川ヲ跋涉セシムルヲ可トス、斯ノ如クスルトキハ能ク剛毅活潑ノ氣象ヲ養成スルヲ得ヘシ、又我邦ノ如キ海國ノ人民ニハ游泳及漕舟等ノ術ヲ知ラシムルニト亦甚タ必要ナルヘケレハ、課業外ニ於テ時々之カ演習ヲナサシムヘシ、普通體操・兵式體操ノ如キ規則立テタルモノ、外、隨意運動



トシテ兒童ノ喜フ戶外遊戯アリ、之ヲ「ふー」とほーる、「べーす」ほーる、「ろーんてんす」投環等トス、但シ「ふー」とほーる、「べーす」ほーるハ男子ニ限レトモ、「ろーんてんす」ト投環トハ女子ニハ適セリ、

普通體操中ノ輕體操ハ、方今女子ニモ之ヲ課スレトモ眞ニ適當トハ云ヒ難シ、歐洲ニ於テハ體操ト舞蹈ト折衷シタル一種特別ノ體操ヲ以テ女子ニ課スト云フ、此術ヲ記シタルノ書ハ未ダ我邦ニ見エサレトモ、近頃獨逸ヨリ携ヘ歸リタル某氏カ之ヲ翻譯シテ、專ラ實驗中ナレハ、日ナラズシテ之カ著書ヲ見ルノ期アルヘシ、  
第十二章 教師ノ心得  
以上章ヲ逐ヒテ教授法ノ概略ヲ記シタレトモ、尙ホ未ダ盡

サ、ル所ノモトアルヘキヲ以テ、茲ニ此章ヲ設ケテ、教師タルモノノ心得ニキ要件ヲ附記シ、以テ此書ノ完結ヲ告ケントス、

第一 着坐及直立ノ體勢

何レノ教科目ヲ授クルニモ、總テ生徒ヲシテ其姿勢ヲ正シカラシムルハ、皆ニ其教授スル所ノ教科目ニ傾注セシムルノ益アルノミナラス、又行儀上體育上共ニ甚タ必要ナル事トス、依テ左ニ之カ概要ヲ記シテ讀者ノ參考ニ供スヘシ、

着坐ノ體勢

- (一) 兩足ヲ六十度ノ角ニナシ床上ニ靜止セシムヘシ、
- (二) 背ノ下部ヲ僅ニ椅子ノ後部ニ接シ可成の後方ニ踞セシムヘシ、



- (三) 膝ハ殆ト直角ニ屈セシムヘシ、
  - (四) 體ハ少シク前面ニ傾ケテ端正ニセシムヘシ、
  - (五) 胸ハ廓張セシムヘシ、
  - (六) 兩手ハ小指ヲ下ニシテ膝上ニ置カシムヘシ、
  - (七) 兩肩ハ平均セシムヘシ、
  - (八) 兩肩胛ハ平ニセシムヘシ、
  - (九) 頭首ハ直立シテ何レノ方ヘモ傾ケサラシムヘシ、
  - (一〇) 頤ハ少シク内方ニ入ルヘシ、
  - (一一) 全體ハ十分ニ伸起セシムヘシ、
  - (一二) 兩眼ハ前面ヲ直視セシムヘシ、
  - (一三) 耳・肩・腕ハ常ニ一直線ニアラシムヘシ、
- 直立ノ體勢

- (一) 兩踵ハ近接セシムヘシ、
- (二) 兩足ハ外方ニ開キテ六十度ノ角ヲラシムヘシ、
- (三) 膝ハ直立ニセシムヘシ、
- (四) 體ハ前方ニ正シク立テ、
- (五) 胸ハ十分ニ開張セシムヘシ、
- (六) 兩臂ハ寛クニ兩側ニ垂レシムヘシ、
- (七) 兩肩ノ高サハ同一タラシムヘシ、
- (八) 肩胛骨ハ平ニセシムヘシ、
- (九) 頭首ハ直立シテ何レノ方ヘモ傾ケサラシムヘシ、
- (一〇) 頤ハ少シク内方ニ入ルヘシ、
- (一一) 全體ハ十分ニ伸起スヘシ、
- (一二) 體ハ少シク前方ニ傾ケ其重サヲシテ膝ノ上ニアラシムヘシ、



- (一) 全身の形、耳、肩、腕、膝、踝、手、指、皆一直線ナラシムヘシ、
- (二) 因に記号、立人、三つ書物ヲ講讀スルキハ、書物ヲ
- (三) 兩手皆持シ、机側ニ出テ、直立セシムヘシ、他人ノ講讀
- (四) 出テ聽キ、或ハ質問ナラストキハ、書物ヲ机上ニ正置セシ
- (五) 正置セシ、書籍ハ机内ニ置クト手ニ執ルトナ問ハス之ヲ
- (六) 正折ナシサ開キカユス、又教師ノ問ニ答ヘシムルト
- (七) 時ハ必ズ机側ニ出テ、直立セシムヘシ、
- (八) 類第五立教授草案ヲ認メ方
- (九) 兩足何事、何事、何事、教授草案、六十度、食マセムヘシ、
- (一〇) 教養、心、力、

- (一) 該課ニ於テ、教養、心、力、ヲ配極ニ即ヘテ、
- (二) 得ル所ノ知識、
- (三) 該課ニ於テ、得ル所ノ諸知識、
- (四) 應用、
- (五) 該課ニ於テ、實益、
- (六) 該課ニ於テ、實益、
- (七) 該課ニ於テ、實益、
- (八) 該課ニ於テ、實益、
- (九) 該課ニ於テ、實益、
- (一〇) 該課ニ於テ、實益、
- (一一) 該課ニ於テ、實益、
- (一二) 該課ニ於テ、實益、
- (一三) 該課ニ於テ、實益、
- (一四) 該課ニ於テ、實益、
- (一五) 該課ニ於テ、實益、
- (一六) 該課ニ於テ、實益、
- (一七) 該課ニ於テ、實益、
- (一八) 該課ニ於テ、實益、
- (一九) 該課ニ於テ、實益、
- (二〇) 該課ニ於テ、實益、
- (二一) 該課ニ於テ、實益、
- (二二) 該課ニ於テ、實益、
- (二三) 該課ニ於テ、實益、
- (二四) 該課ニ於テ、實益、
- (二五) 該課ニ於テ、實益、
- (二六) 該課ニ於テ、實益、
- (二七) 該課ニ於テ、實益、
- (二八) 該課ニ於テ、實益、
- (二九) 該課ニ於テ、實益、
- (三十) 該課ニ於テ、實益、
- (三十一) 該課ニ於テ、實益、
- (三十二) 該課ニ於テ、實益、
- (三十三) 該課ニ於テ、實益、
- (三十四) 該課ニ於テ、實益、
- (三十五) 該課ニ於テ、實益、
- (三十六) 該課ニ於テ、實益、
- (三十七) 該課ニ於テ、實益、
- (三十八) 該課ニ於テ、實益、
- (三十九) 該課ニ於テ、實益、
- (四十) 該課ニ於テ、實益、
- (四一) 該課ニ於テ、實益、
- (四二) 該課ニ於テ、實益、
- (四三) 該課ニ於テ、實益、
- (四四) 該課ニ於テ、實益、
- (四五) 該課ニ於テ、實益、
- (四六) 該課ニ於テ、實益、
- (四七) 該課ニ於テ、實益、
- (四八) 該課ニ於テ、實益、
- (四九) 該課ニ於テ、實益、
- (五十) 該課ニ於テ、實益、
- (五十一) 該課ニ於テ、實益、
- (五十二) 該課ニ於テ、實益、
- (五十三) 該課ニ於テ、實益、
- (五十四) 該課ニ於テ、實益、
- (五十五) 該課ニ於テ、實益、
- (五十六) 該課ニ於テ、實益、
- (五十七) 該課ニ於テ、實益、
- (五十八) 該課ニ於テ、實益、
- (五十九) 該課ニ於テ、實益、
- (六十) 該課ニ於テ、實益、
- (六十一) 該課ニ於テ、實益、
- (六十二) 該課ニ於テ、實益、
- (六十三) 該課ニ於テ、實益、
- (六十四) 該課ニ於テ、實益、
- (六十五) 該課ニ於テ、實益、
- (六十六) 該課ニ於テ、實益、
- (六十七) 該課ニ於テ、實益、
- (六十八) 該課ニ於テ、實益、
- (六十九) 該課ニ於テ、實益、
- (七十) 該課ニ於テ、實益、
- (七十一) 該課ニ於テ、實益、
- (七十二) 該課ニ於テ、實益、
- (七十三) 該課ニ於テ、實益、
- (七十四) 該課ニ於テ、實益、
- (七十五) 該課ニ於テ、實益、
- (七十六) 該課ニ於テ、實益、
- (七十七) 該課ニ於テ、實益、
- (七十八) 該課ニ於テ、實益、
- (七十九) 該課ニ於テ、實益、
- (八十) 該課ニ於テ、實益、
- (八十一) 該課ニ於テ、實益、
- (八十二) 該課ニ於テ、實益、
- (八十三) 該課ニ於テ、實益、
- (八十四) 該課ニ於テ、實益、
- (八十五) 該課ニ於テ、實益、
- (八十六) 該課ニ於テ、實益、
- (八十七) 該課ニ於テ、實益、
- (八十八) 該課ニ於テ、實益、
- (八十九) 該課ニ於テ、實益、
- (九十) 該課ニ於テ、實益、
- (九十一) 該課ニ於テ、實益、
- (九十二) 該課ニ於テ、實益、
- (九十三) 該課ニ於テ、實益、
- (九十四) 該課ニ於テ、實益、
- (九十五) 該課ニ於テ、實益、
- (九十六) 該課ニ於テ、實益、
- (九十七) 該課ニ於テ、實益、
- (九十八) 該課ニ於テ、實益、
- (九十九) 該課ニ於テ、實益、
- (一百) 該課ニ於テ、實益、



(3) 練習

(1) 齊唱 略語ノ解

教授草案ハ可成的簡便ヲ要スルヲ以テ、諸種ノ略語ヲ用フ  
ルコトアリ左ニ之ヲ掲ク、

(1) 教師ニ教師ノ略

(2) 生徒ニ生徒ノ略

(3) 級決 該學年生徒一同ニ手ヲ舉ケシメテ可否ヲ決セ

(4) 教可實 教師自ラ可否ヲ決スルヲ云フ、

(5) 各唱ニ(各讀) 生徒ヲ各別ニ唱ヘ若クハ各別ニ讀

(6) 齊唱ニ(齊讀) 該學年生徒サレテ同時ニ唱ヘ若クハ讀

(3) 練習

(1) 齊唱 略語ノ解

教授草案ハ可成的簡便ヲ要スルヲ以テ、諸種ノ略語ヲ用フ  
ルコトアリ左ニ之ヲ掲ク、

(1) 教師ニ教師ノ略

(2) 生徒ニ生徒ノ略

(3) 級決 該學年生徒一同ニ手ヲ舉ケシメテ可否ヲ決セ

(4) 教可實 教師自ラ可否ヲ決スルヲ云フ、

(5) 各唱ニ(各讀) 生徒ヲ各別ニ唱ヘ若クハ各別ニ讀

(6) 齊唱ニ(齊讀) 該學年生徒サレテ同時ニ唱ヘ若クハ讀

(7) 舉手 生徒ノ所思ヲ表セシメカ爲メ、右手ノ掌ヲ開キテ

(8) 書板 黑板ニ書スルヲ云フ、

(9) 消板 黑板ヲ拭ヘ消スヲ云フ、

教授中ハ務テ時間ヲ有益ニ使用シ、毫モ間隙ナキヲ要スル

カ故ニ級決ノ如キハ一々之ヲ行ハサルヲ可トス、又齊唱ハ

喧騒ニシテ各人ノ誤謬ヲ見出スニ苦ムノミナラス、發音ニ

一種異様ノ調節ヲ附スルノ害アレハ、生徒ノ倦鬱ヲ散セシ

ムル爲メ時ニ或ハ之ヲ用フルモ、其他ハ總テ施サ、ルヲ可

トス、

第十二章 (教師ノ心得)

第三 教授ヲ批評スヘキ要點







- (1) 行儀ハ善良ナリヤ否ヤ、
  - (2) 能ク學課ヲ理解セシヤ否ヤ、
  - (3) 快活ナリシヤ否ヤ、
  - (4) 素習アリシヤ否ヤ、
  - (5) 生徒ハ學力該學年ニ適當ナルヤ否ヤ、
  - (6) 各生徒ノ學力年齢等ハ平均セルヤ否ヤ、
- (1) 第五即地方ノ小學校ハ都會ノ地ヲ除クノ外、成ルヘ
- (2) 對シ、對シ單級教授ノ仕組ニ依ルヘキコト、
- 普國ニ於テハ三萬四千ノ小學校中、單級學校又ハ單級ナル  
 半日學校數三萬三千餘上リ(百分ノ七十)澳國ハ一萬六千ノ  
 小學校中、單級學校ハ八千七百ニ上ル(百分ノ五十以上)ト云  
 へ(普、澳兩國ハ我國ニ比シ富強ノ度ヲ進メタルナルヲ以テ、然レ

ニ尙ホ此ノ如シ、故ニ我國ニテハ都會ノ學校ヲ除クノ外、成  
 ルヘク單級ノ編成ニ依リテ教授スルノ方法ヲ講究セザル  
 ヘカラス、予輩カ嘗テ其筋ヘ報告シタル單級教授ノ成績ハ  
 多少讀者ノ參考トモナランカ、

第四 各教科目ノ教授細目ト教授日程ヲ作り置ク  
 へキコト、

各小學校ニ於テハ豫メ各教科目ニ關スル細密ノ教授順序  
 ナ作り、之ヲ一ケ年ヲ數學期ニ分ナタル各學期ニ配當シ、更  
 ニ各教科目ノ教授日程ヲ作り、以テ十分ナル教授ノ豫算ヲ  
 立ツルコト甚タ必要ナリトス、



新訂  
增補  
教授術

百三十六

新訂  
增補  
教授術

全一册

定價金貳拾五錢

明治三十一年二月廿一日	明治三十一年二月廿一日	明治三十一年二月廿一日	明治三十一年二月廿一日	明治三十一年二月廿一日	明治三十一年二月廿一日	明治三十一年二月廿一日
發行	訂正再版印刷	發行	訂正再版印刷	發行	訂正再版印刷	發行

全編纂者 黑田定治

文學社編輯所訂正

發兌 印刷者 東京市日本橋區本町四丁目十六番地 小林義則

文學社

版權所有



青島縣志

印刷所

文學社工場

東京市神田區錦町三丁目一番地

大賣捌所

全國各府縣特約書林







263  
12



終